

府中市福祉計画策定のための調査 障害福祉分野 障害の種類別のクロス集計結果（抜粋）（案）

1 分析目的

- アンケート調査の全問・質問間クロス集計を通して、障害のある人、育ちや発達に気になることがある人、難病のある人の各層におけるニーズを詳細に分析し、次期計画に向けた課題整理の参考にする。

2 分析方法

- 分析方法として、次のような方法で分析を行う。全体集計は第4回協議会で示したものである。

(1) 全体集計

- 調査ごとに、全体集計を出し、全体としての傾向を把握する。

(2) 基本属性での全問クロス集計

- 基本属性を集計軸とした全問クロス集計を行い、基本的な分析を行う。
- 全問クロス集計は、性別、年代別、障害程度別等の集計軸に基づき実施する。

(3) 質問間クロス集計

- 問題意識に沿って、就労の有無、仕事の形態、単独支援ができるか等、課題となる切り口を設け、必要な質問との間でのクロス集計を行い、分析する。

(4) 自由回答の整理

- 数量的な分析だけでは把握しきれない対象者の自由意見について、項目を分類、整理し、分析を行う。これは第6回協議会でお示しする予定である。

3 分析結果の反映方法

- 分析結果は、課題として整理し、次期事業計画の内容に反映させる。

4 障害等のある人への調査（調査1）

- 「障害の種類」は、F5（所持する手帳または受給者証の種類）の記載をもとに、以下のように分類して集計した。
- いずれの手帳にも○をつけなかった方は障害の種類別の集計結果には含まれないが、全体の集計結果に含まれている。
- 母数が1桁台の集計結果については、言及しないことがある。

身体障害者：身体障害者手帳のみ○をつけた方

身体障害者手帳と特定医療費受給者証に○をつけた方

知的障害者：愛の手帳に○をつけた方（他の手帳や受給者証を所持している方を含む）

精神障害者：精神障害者保健福祉手帳のみ○をつけた方

自立支援医療受給者証所持者のみ○をつけた方

精神障害者保健福祉手帳と自立支援医療受給者証に○をつけた方

難病患者：特定医療費受給者証のみ○をつけた方

		(人)	(%)
全体		1419	100.0
障害の種類	身体障害者	761	53.7
	知的障害者	175	12.3
	精神障害者	304	21.4
	難病患者	125	8.8
	無回答	54	3.8

年齢別の内訳

		(上段：人、下段%)				
		18～39歳	40～64歳	65歳以上	無回答	
全体		1419	307	453	636	23
		100.0	21.6	31.9	44.9	1.6
障害の種類	身体障害者	761	21	192	533	15
		100.0	2.8	25.2	70.0	2.0
	知的障害者	175	124	40	9	2
		100.0	70.9	22.9	5.1	1.1
	精神障害者	304	125	156	21	2
	100.0	41.1	51.3	6.9	0.7	
難病患者	125	33	56	35	1	
	100.0	26.4	44.8	28.0	0.8	

(1) 障害福祉サービスの利用

- ・現在よく利用されているサービスは、身体障害者では「補装具費の支給・日常生活用具費」、知的障害者では「日中活動系サービス」、精神障害者と難病患者では「相談支援」である。
- ・サービスの「満足度」は6割台である。サービスに不満な理由は、「緊急時に利用できない」、「希望通りの内容でサービスが使えない」、「希望する曜日・時間に使えない」などである。
- ・今後利用したいサービスは、身体障害者、精神障害者、難病患者は「相談支援」、知的障害者は「居住系」サービスである。

◎福祉サービスの利用状況・利用意向（問6）

【全体】

- ・「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせて<利用者層>は、『補装具・日常生活用具費の支給（14.4%）』が最も多く、『相談支援（14.3%）』、『日中活動系サービス（13.2%）』が続いている。
- ・「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後、利用したい」をあわせて<未利用者層>は、『相談支援（26.6%）』、『短期入所サービス（21.8%）』、『移動支援（20.6%）』が続いている。『訪問系サービス（20.3%）』、『居住系サービス（20.0%）』も2割を超えている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は、<利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付（17.9%）』、<未利用者層>では『相談支援（25.1%）』が最も多い。
- ・知的障害者は、<利用者層>では『日中活動系サービス（38.3%）』、<未利用者層>では『居住系サービス（46.9%）』が最も多い。
- ・精神障害者は、<利用者層>では『相談支援（25.3%）』、<未利用者層>では『相談支援（28.9%）』が最も多い。
- ・難病患者は、<利用者層>では『相談支援（4.8%）』と『補装具費の支給・日常生活用具費の給付（4.8%）』、<未利用者層>では『相談支援（24.0%）』が最も多い。

図表1 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（全体、障害の種類別）

(1) 訪問系サービス

		(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=1,419)	9.4	3.0	0.6	0.8	19.0	16.8	30.1	21.3	12.4	20.3
障害の種類	身体障害者	(n=761)	8.5	2.6	0.5	0.3	20.8	16.0	26.3	25.5	11.2	21.6
	知的障害者	(n=175)	11.4	5.7	0.6	2.9	20.0	14.3	29.1	17.7	17.1	23.4
	精神障害者	(n=304)	12.2	3.6	1.0	1.0	15.5	20.1	35.2	13.2	15.8	17.4
	難病患者	(n=125)	3.2	0.8	0.0	0.8	12.8	17.6	47.2	17.6	4.0	13.6

(2) 日中活動系サービス

		(N)	利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=1,419)	9.9	3.2	0.7	1.1	12.3	18.7	30.5	24.0	13.2	14.2
障害の種類	身体障害者	(n=761)	4.1	3.0	0.5	0.7	14.2	18.8	30.0	29.4	7.1	15.4
	知的障害者	(n=175)	32.6	5.7	2.9	1.7	7.4	11.4	23.4	16.0	38.3	12.0
	精神障害者	(n=304)	16.8	3.6	0.3	2.3	10.9	22.4	28.9	15.1	20.4	13.5
	難病患者	(n=125)	0.8	0.8	0.0	0.8	10.4	18.4	49.6	19.2	1.6	11.2

(3) 居住系サービス

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	2.4	0.7	1.8	1.0	17.3	21.7	31.6	24.3	3.1	20.0
障害の種類	身体障害者	(n=761)	1.8	0.5	0.3	0.3	14.6	22.1	31.4	29.3	2.4	15.1
	知的障害者	(n=175)	5.1	2.3	9.1	4.0	33.7	14.9	18.9	16.6	7.4	46.9
	精神障害者	(n=304)	2.6	0.7	2.0	1.3	17.4	25.3	34.2	16.8	3.3	20.7
	難病患者	(n=125)	1.6	0.0	0.8	0.0	11.2	22.4	44.8	19.2	1.6	12.0

(4) 短期入所サービス

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	3.9	3.2	1.6	0.8	19.5	20.0	29.2	22.8	7.1	21.8
障害の種類	身体障害者	(n=761)	3.2	0.8	0.7	0.5	20.5	20.0	27.6	27.3	3.9	21.7
	知的障害者	(n=175)	10.9	16.0	4.0	4.0	18.3	14.3	20.6	16.0	26.9	26.3
	精神障害者	(n=304)	3.6	3.3	3.0	0.3	19.1	23.4	32.9	15.5	6.9	22.4
	難病患者	(n=125)	0.8	0.0	0.8	0.0	12.8	22.4	44.8	18.4	0.8	13.6

(5) 相談支援

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	11.4	2.9	0.6	1.1	24.9	11.6	25.6	22.3	14.3	26.6
障害の種類	身体障害者	(n=761)	6.2	1.3	0.3	0.4	24.4	12.1	27.5	28.1	7.5	25.1
	知的障害者	(n=175)	29.1	5.1	1.7	2.3	26.3	6.3	14.3	15.4	34.3	30.3
	精神障害者	(n=304)	18.8	6.6	1.0	2.3	25.7	11.5	23.4	11.5	25.3	28.9
	難病患者	(n=125)	4.0	0.8	0.0	0.0	24.0	15.2	39.2	16.8	4.8	24.0

(6) 移動支援

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	4.4	2.7	1.0	1.2	18.4	18.3	30.3	24.2	7.1	20.6
障害の種類	身体障害者	(n=761)	2.5	0.9	0.3	0.5	19.7	16.7	29.8	29.8	3.4	20.5
	知的障害者	(n=175)	12.0	11.4	4.6	3.4	19.4	15.4	20.0	15.4	23.4	27.4
	精神障害者	(n=304)	6.6	3.6	1.3	1.3	15.8	23.7	32.6	15.5	10.2	18.4
	難病患者	(n=125)	1.6	0.0	0.0	0.8	12.8	19.2	46.4	19.2	1.6	13.6

(7) 意思疎通支援

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	1.6	0.5	0.1	0.3	6.2	24.3	39.3	28.0	2.0	6.6
障害の種類	身体障害者	(n=761)	2.0	0.9	0.0	0.1	7.4	21.7	35.9	32.2	2.9	7.5
	知的障害者	(n=175)	1.7	0.0	0.0	1.1	4.6	26.3	38.9	27.4	1.7	5.7
	精神障害者	(n=304)	1.0	0.0	0.3	0.0	3.6	31.6	44.1	19.7	1.0	3.9
	難病患者	(n=125)	0.8	0.0	0.0	0.0	7.2	22.4	50.4	19.2	0.8	7.2

(8) 補装具・日常生活用具費の支給

(%)

			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	9.8	4.6	0.1	0.3	16.8	16.1	29.2	23.5	14.4	17.1
障害の種類	身体障害者	(n=761)	12.0	5.9	0.1	0.1	22.6	10.4	23.1	26.1	17.9	22.9
	知的障害者	(n=175)	12.0	5.1	0.0	1.1	4.6	22.9	29.7	24.6	17.1	5.7
	精神障害者	(n=304)	6.3	2.3	0.0	0.3	9.5	26.0	38.5	17.4	8.6	9.9
	難病患者	(n=125)	4.8	0.0	0.0	0.0	15.2	18.4	44.8	16.8	4.8	15.2

【障害の種類×年代】

(短期入所サービス)

- 身体障害者は、年齢が上がるほど、「今後、利用したい」が多くなっている。65歳以上は「今後、利用したい」が全体より5ポイント程度高い。
- 知的障害者は、18～39歳で全体より10ポイント以上、40～64歳で全体より5ポイント以上、「利用しているが希望通りではない」が高い。
- 精神障害者は、65歳以上で「今後、利用したい」が全体より10ポイント以上高い。
- 難病患者は、年齢が上がるほど、「今後、利用したい」が多くなっている。

(相談支援)

- 身体障害者は、年齢が上がるほど、「今後、利用したい」が多くなっている。
- 知的障害者は、18～39歳で「希望通り利用できている」は20ポイント以上、「今後利用したい」も全体より5ポイント程度高く、現在の利用状況、今後の利用意向ともに高い。
- 精神障害者は、18～39歳で「希望通り利用できている」は10ポイント程度、「今後利用したい」も全体より5ポイント以上高く、現在の利用状況、今後の利用意向ともに高い。40～64歳は「希望通り利用できている」が全体より5ポイント以上高い。
- 難病患者は、65歳以上で「希望通り利用できている」が1割台である。いずれの年代も「今後、利用したい」が2割以上である。

図表2 障害福祉サービスの利用状況・利用意向（全体、障害の種類×年代別）

(4) 短期入所サービス (障害の種類×年代)

			利用者層		未利用者層			利用したい くない	分らない	無回答	利用者層	未利用者層
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	3.9	3.2	1.6	0.8	19.5	20.0	29.2	22.8	7.1	21.8
障害の種類× 年代	身体障害者	18～39歳 (n=21)	4.8	0.0	4.8	0.0	9.5	42.9	33.3	4.8	4.8	14.3
		40～64歳 (n=192)	2.1	1.0	1.0	0.5	12.0	29.2	36.5	18.8	3.1	13.5
		65歳以上 (n=533)	3.6	0.8	0.4	0.6	24.4	15.8	24.6	30.4	4.3	25.3
	知的障害者	18～39歳 (n=124)	12.1	19.4	5.6	4.8	20.2	14.5	17.7	11.3	31.5	30.6
		40～64歳 (n=40)	10.0	10.0	0.0	2.5	12.5	15.0	27.5	22.5	20.0	15.0
		65歳以上 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	22.2	44.4	0.0	22.2
	精神障害者	18～39歳 (n=125)	7.2	6.4	6.4	0.0	21.6	25.6	26.4	8.0	13.6	28.0
		40～64歳 (n=156)	0.6	0.6	0.6	0.6	15.4	22.4	41.0	18.6	1.3	16.7
		65歳以上 (n=21)	4.8	4.8	0.0	0.0	33.3	19.0	14.3	28.6	9.5	33.3
	難病患者	18～39歳 (n=33)	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	24.2	66.7	3.0	0.0	6.1
		40～64歳 (n=56)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	23.2	42.9	19.6	0.0	14.3
		65歳以上 (n=35)	2.9	0.0	0.0	0.0	17.1	20.0	28.6	31.4	2.9	17.1

(5) 相談支援 (障害の種類×年代)

			利用者層		未利用者層			利用したい くない	分らない	無回答	利用者層 (再掲)	未利用者層 (再掲)
			希望通り 利用でき ている	利用して いるが希 望通りで はない	利用した いが事業 所に空き がない	利用した い事業所 がない	今後、利 用したい					
全体		(N=1,419)	11.4	2.9	0.6	1.1	24.9	11.6	25.6	22.3	14.3	26.6
障害の種類× 年代	身体障害者	18～39歳 (n=21)	9.5	4.8	0.0	0.0	14.3	28.6	38.1	4.8	14.3	14.3
		40～64歳 (n=192)	5.2	2.6	0.5	0.5	25.0	14.6	31.8	20.3	7.8	26.0
		65歳以上 (n=533)	6.6	0.8	0.2	0.4	25.1	10.3	25.9	31.0	7.3	25.7
	知的障害者	18～39歳 (n=124)	33.9	5.6	1.6	3.2	29.8	5.6	9.7	11.3	39.5	34.7
		40～64歳 (n=40)	22.5	5.0	2.5	0.0	17.5	7.5	25.0	20.0	27.5	20.0
		65歳以上 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1	33.3	44.4	0.0	11.1
	精神障害者	18～39歳 (n=125)	20.0	7.2	0.8	2.4	31.2	11.2	20.0	7.2	27.2	34.4
		40～64歳 (n=156)	18.6	5.8	1.3	2.6	21.2	12.2	26.9	12.8	24.4	25.0
		65歳以上 (n=21)	14.3	9.5	0.0	0.0	28.6	9.5	19.0	19.0	23.8	28.6
	難病患者	18～39歳 (n=33)	0.0	0.0	0.0	0.0	24.2	15.2	57.6	3.0	0.0	24.2
		40～64歳 (n=56)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	19.6	37.5	17.9	0.0	25.0
		65歳以上 (n=35)	14.3	0.0	0.0	0.0	22.9	8.6	25.7	28.6	14.3	22.9

◎障害福祉サービスの満足度（問6-1）

【全体】

- ・「満足（30.2%）」と「やや満足（35.4%）」をあわせた＜満足層＞は、65.6%である。
「やや不満（17.5%）」と「不満（3.9%）」をあわせた＜不満層＞は21.4%である。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者の＜満足層（身体：66.8%、知的：64.6%、精神：66.1%）＞は、全体（65.6%）とあまり変わらない。

図表3 障害福祉サービスの満足度（全体、障害の種類別）
＜障害福祉サービスを利用している人＞

			満足層		不満層		無回答	満足層 (再掲)	不満層 (再掲)
			満足	やや満足	やや不満	不満			
全体		(n=440)	30.2	35.4	17.5	3.9	13.0	65.6	21.4
障害の種類	身体障害者	(n=202)	30.7	36.1	16.3	4.0	12.9	66.8	20.3
	知的障害者	(n=96)	27.1	37.5	20.8	5.2	9.4	64.6	26.0
	精神障害者	(n=121)	32.2	33.9	19.0	2.5	12.4	66.1	21.5
	難病患者	(n=9)	33.4	22.2	0.0	11.1	33.3	55.6	11.1

◎サービスの不満な理由（問6-2：複数回答）

【全体】

- ・＜不満層＞にその理由をたずねたところ、「緊急時に利用できない（39.4%）」が最も多く、「希望通りの内容でサービスが使えない（37.2%）」、「希望する曜日・時間に使えない（36.2%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「費用負担が大きい（36.6%）」が最も多い。
- ・知的障害者は「緊急時に利用できない（60.0%）」が最も多い。
- ・精神障害者は「希望する曜日・時間に使えない（42.3%）」が最も多い。
- ・難病患者は回答者数が1人であるが、「サービスの質が良くない」と回答している。

図表4 障害福祉サービスの不満な理由（全体、障害の種類別：複数回答）
＜やや不満、不満と回答した人＞

			サービス 支給量が 少ない	サービス の質が良 くない	希望通り の内容で サービス が使えな い	希望する 曜日・時 間に使え ない	希望する 事業者や 施設が見 つからな い	緊急時に 利用でき ない	費用負担 が大きい	利用方法 がわかり にくい	サービス 内容がわ かりにく い	サービス の情報が 入手しに くい	その他	無回答
														(%)
全体		(n=94)	24.5	22.3	37.2	36.2	19.1	39.4	25.5	16.0	18.1	26.6	13.8	3.2
障害の種類	身体障害者	(n=41)	17.1	29.3	34.1	26.8	9.8	31.7	36.6	24.4	24.4	29.3	12.2	2.4
	知的障害者	(n=25)	40.0	16.0	48.0	48.0	28.0	60.0	16.0	4.0	12.0	24.0	8.0	0.0
	精神障害者	(n=26)	23.1	15.4	30.8	42.3	26.9	34.6	19.2	15.4	15.4	26.9	23.1	7.7
	難病患者	(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 就労

- ・身体障害者と精神障害者は「仕事はしていない」が最も多いが、それ以外では「一般就労」が多い。
- ・知的障害者は「障害者施設に通所で働いている」、難病患者は「仕事はしていない」が多い。
- ・仕事をするうえでの不安は全体で「収入が少ない」が多いが、精神障害者は「通勤がたいへん」、「人間関係がうまくいかない」、「相談できる人がいない」、「雇用形態が不安定」なども多い。
- ・仕事をしていない理由は、身体障害者は「高齢のため」、知的障害者は「重い障害のため」、精神障害者は「病気のため（入院を含む）」、難病患者は「病気のため（入院を含む）」、「高齢のため」などとなっている。
- ・障害等のある人が働くために希望することは、身体障害者は「自分の家の近くに働く場所があること」、知的障害者は「障害等のある人に適した仕事が開拓されること」、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること」が多くなっている。

◎現在の仕事（問9）

【全体】

- ・「仕事はしていない（55.5%）」と「無回答（3.4%）」を除くと、＜仕事をしている人＞は41.1%である。

【障害の種類】

- ・身体障害者は、「仕事はしていない（68.6%）」が最も多いが、それ以外では「一般就労（13.9%）」が続いている。
- ・知的障害者は、「障害者施設に通所で働いている（39.4%）」が最も多い。
- ・精神障害者は、「仕事はしていない（45.5%）」が最も多いが、それ以外では「一般就労（16.8%）」、「障害者施設に通所で働いている（15.5%）」、「パート・アルバイト・日雇い（12.8%）」が続いている。
- ・難病患者は、「仕事はしていない（44.8%）」が最も多いが、それ以外では「一般就労（37.6%）」が最も多い。

図表5 現在の仕事（全体、障害の種類別、障害の種類×年代別）

		(N)	仕事をしている人						仕事はしていない	無回答	仕事をしている人(再掲)		
			一般就労	自営業者	家業手伝い	パート・アルバイト・日雇い	在宅ワーク	障害者施設に通所で働いている				その他	
全体		(N=1,419)	17.3	2.6	1.2	7.8	0.6	8.7	2.9	55.5	3.4	41.1	
障害の種類	身体障害者	(n=761)	13.9	3.5	1.2	5.7	0.7	0.8	2.1	68.6	3.5	27.9	
	知的障害者	(n=175)	18.9	1.1	0.6	8.6	0.0	39.4	5.1	21.7	4.6	73.7	
	精神障害者	(n=304)	16.8	1.3	1.6	12.8	0.3	15.5	3.9	45.5	2.3	52.2	
	難病患者	(n=125)	37.6	3.2	1.6	8.8	1.6	0.0	1.6	44.8	0.8	54.4	
障害の種類×年代	身体障害者	18～39歳	(n=21)	33.3	0.0	0.0	9.5	4.8	0.0	4.8	47.6	0.0	52.4
		40～64歳	(n=192)	40.6	5.2	1.0	8.9	0.5	1.6	2.6	36.5	3.1	60.4
		65歳以上	(n=533)	3.2	3.0	1.3	4.5	0.6	0.6	1.9	81.5	3.4	15.1
	知的障害者	18～39歳	(n=124)	22.6	0.0	0.8	8.9	0.0	41.1	6.5	16.9	3.2	79.9
		40～64歳	(n=40)	12.5	2.5	0.0	10.0	0.0	42.5	0.0	25.0	7.5	67.5
		65歳以上	(n=9)	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	11.1	11.1
	精神障害者	18～39歳	(n=125)	18.4	0.8	1.6	13.6	0.0	24.0	5.6	35.2	0.8	64.0
		40～64歳	(n=156)	17.9	1.3	1.9	12.8	0.6	10.3	2.6	50.0	2.6	47.4
		65歳以上	(n=21)	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0	4.8	4.8	71.4	9.5	19.1
	難病患者	18～39歳	(n=33)	45.5	0.0	3.0	24.2	6.1	0.0	0.0	21.2	0.0	78.8
		40～64歳	(n=56)	51.7	5.4	1.8	5.4	0.0	0.0	3.6	32.1	0.0	67.9
		65歳以上	(n=35)	8.6	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	85.6	2.9	11.5

◎仕事をするうえでの不安（問9-1：複数回答）

【全体】

- ・「収入が少ない（38.2%）」が最も多く、「通勤がたいへん（15.7%）」、「人間関係がうまくいかない（13.1%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は、「収入が少ない（身体：34.9%、知的：41.9%、精神：49.1%）」が最も多い。
- ・知的障害者は、「収入が少ない」以外にも「人間関係がうまくいかない（14.0%）」が続いている。
- ・精神障害者は、「収入が少ない」以外にも「人間関係がうまくいかない（25.2%）」、「通勤がたいへん（22.6%）」が2割を超えている。「相談できる人がいない（13.8%）」、「雇用形態が不安定（13.2%）」は全体より5ポイント以上高い。
- ・難病患者は、「仕事がつい（26.5%）」が2割を超えている。

図表6 仕事上の不安（全体、障害の種類別：複数回答）
 <仕事をしている人>

		収入が少 ない	仕事が難 しい	仕事がつ い	勤務日 数・時間 の調整が できない	人間関係 がうまく いかない	トイレな ど設備が 十分でな い	通勤がた いへん	雇用形態 が不安定	相談でき る人がい ない	その他	特にない	無回答
全体	(n=581)	38.2	5.7	11.5	7.1	13.1	4.6	15.7	7.4	7.7	8.1	31.0	5.0
障害の種類	身体障害者 (n=212)	34.9	5.2	11.8	5.7	6.6	7.1	14.6	3.8	4.2	7.5	37.7	6.1
	知的障害者 (n=129)	41.9	3.1	4.7	2.3	14.0	3.9	7.0	7.0	7.8	7.8	30.2	4.7
	精神障害者 (n=159)	49.1	9.4	10.7	9.4	25.2	2.5	22.6	13.2	13.8	11.3	22.0	3.8
	難病患者 (n=68)	19.1	4.4	26.5	16.2	4.4	2.9	17.6	7.4	5.9	4.4	29.4	2.9

(%)

◎仕事をしていない理由（問9-2：複数回答）

【全体】

- ・「高齢のため（48.2%）」が最も多く、「病気のため（入院を含む）（23.4%）」、「重い障害のため（19.5%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「高齢のため（61.5%）」、知的障害者は「重い障害のため（50.0%）」、精神障害者は「病気のため（入院を含む）（42.0%）」が最も多い。難病患者は「病気のため（入院を含む）（48.2%）」が最も多く、「高齢のため（37.5%）」が続いている。

図表7 仕事をしていない理由（全体、障害の種類別：複数回答）
 <仕事をしていない人>

		就学中・ 就学前の ため	高齢のた め	重い障害 のため	病気のため (入院を 含む)	希望する 職種が得 られない ため	通勤が難 しいため	就労に向 けて準備 中のため	働く必要 がないた め	解雇され たため	その他	特に理由 はない	無回答
全体	(n=790)	0.6	48.2	19.5	23.4	4.2	5.3	5.2	9.9	1.3	11.0	8.4	3.3
障害の種類	身体障害者 (n=522)	0.0	61.5	19.2	17.0	2.9	4.2	2.5	11.5	1.1	9.4	9.8	3.4
	知的障害者 (n=38)	5.3	10.5	50.0	7.9	7.9	0.0	13.2	0.0	2.6	5.3	5.3	2.6
	精神障害者 (n=138)	1.4	8.7	21.0	42.0	10.1	10.9	14.5	5.8	0.7	20.3	3.6	3.6
	難病患者 (n=56)	0.0	37.5	5.4	48.2	1.8	7.1	5.4	12.5	3.6	10.7	5.4	3.6

(%)

◎障害のある人が働くために希望すること（問11：複数回答）

【全体】

- ・「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること（40.9%）」が最も多く、「自分の家の近くに働く場所があること（40.6%）」、「障害等のある人に適した仕事が開拓されること（35.5%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「自分の家の近くに働く場所があること（33.9%）」、知的障害者は「障害等のある人に適した仕事が開拓されること（57.1%）」、精神障害者と難病患者は「必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること（精神：60.2%、難病：61.6%）」が最も多い。

図表8 障害のある人が働くために希望すること（全体、障害の種類別：複数回答）

(%)

		自分の家の近くに働く場所があること	必要なときに通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること	障害等のある人に適した仕事が開拓されること	就労の場を紹介したり、相談できる場所が整っていること	企業に就職するための訓練を受けたり、求職活動を手伝ってもらうこと	職業訓練所など、技能・知識の習得を援助する施設が充実していること	民間企業がもっと積極的に雇用すること	自営業を希望する人への支援を充実させること	事業主や職場の人たちが、障害等のある人の雇用について充分理解していること
全体	(N=1,419)	40.6	40.9	35.5	27.8	15.2	14.7	21.1	8.0	31.8
障害の種類	身体障害者 (n=761)	33.9	32.3	26.9	18.7	9.2	10.0	17.3	7.0	22.6
	知的障害者 (n=175)	48.0	36.6	57.1	40.0	22.9	25.1	25.1	4.6	44.6
	精神障害者 (n=304)	53.6	60.2	49.3	43.1	28.0	20.7	28.9	12.5	48.0
	難病患者 (n=125)	47.2	61.6	31.2	35.2	14.4	16.8	25.6	11.2	36.0

		事業主や職場の人たちが障害特性について理解していること	職場の施設や設備が障害等のある人にも利用できるように配慮されていること	介助者と一緒に働けること	同じような障害等のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	賃金格差がないこと	その他	分からない	無回答
全体	(N=1,419)	30.4	21.8	8.6	15.5	22.6	4.0	16.2	15.7
障害の種類	身体障害者 (n=761)	21.6	19.3	5.7	8.9	17.0	4.6	21.0	21.0
	知的障害者 (n=175)	47.4	27.4	16.0	27.4	27.4	2.3	9.1	9.7
	精神障害者 (n=304)	46.1	25.3	11.2	25.3	32.9	5.3	8.2	5.9
	難病患者 (n=125)	30.4	24.0	10.4	14.4	30.4	1.6	10.4	8.8

(3) 相談・権利擁護

- ・悩みや困りごとを相談できる人が「いる」人が8割以上であるが、「いない」人も1割程度いる。
- ・悩みや困りごとの相談先は「家族・親族」が最も多いが、身体障害者と難病患者は「友人・知人」、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所」、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員」も多い。
- ・成年後見制度を利用する場合に、成年後見人にやってほしいことは、いずれの障害も「生活・医療等に関する契約や手続き」、「福祉サービスの契約や手続き」、「預貯金等の管理・解約」などが多い。
- ・成年後見制度が利用しやすくなるために必要なことは、身体障害者、精神障害者、難病患者は「成年後見制度を理解するための周知・啓発」、知的障害者は「家族などの親族後見人へのサポート」が最も多い。

◎悩みや困りごとを相談できる人の有無（問12）

【全体】

- ・「いる」84.5%、「いない」11.5%である。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、全体と同様「いる」が8割を超えている。

図表9 相談できる人の有無（全体、障害の種類別）

		(%)			
		いる	いない	無回答	
全体		(N=1,419)	84.5	11.5	4.0
障害の種類	身体障害者	(n=761)	84.0	11.4	4.6
	知的障害者	(n=175)	84.6	9.7	5.7
	精神障害者	(n=304)	83.6	14.1	2.3
	難病患者	(n=125)	89.6	8.8	1.6

◎悩みや困りごとを相談した経験（問12-1：複数回答）

【全体】

- ・問12で「いる」と回答した人に悩みや困りごとを相談した経験があるかたずねたところ、「家族・親族（85.7%）」が最も多く、「友人・知人（36.4%）」、「医師、看護師、医療相談員など（25.6%）」が続いている。市役所（保健センター等も含む）（11.5%）」、「地域生活支援センター（10.7%）」、「障害者施設・サービス提供事業所（10.6%）」、「自分と同じ状況の仲間（10.1%）」も1割を超えている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも、「家族・親族（身体：88.6%、知的：87.8%、精神：71.7%、難病：94.6%）」が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者と難病患者は「友人・知人（身体：38.3%、難病患者：56.3%）」、知的障害者は「障害者施設・サービス提供事業所（33.1%）」、精神障害者は「医師、看護師、医療相談員など（45.3%）」となっている。

図表10 相談先（全体、障害の種類別：複数回答）

<相談できる人が「いる」と回答した人>

		(%)								
		家族・親 族	友人・知 人	学校	自分と同 じ状況の 仲間	民生・児 童委員	地域生活 支援セン ター	相談支援 事業所	障害者施 設・サー ビス提供 事業所	
全体		(n=1,199)	85.7	36.4	2.3	10.1	0.3	10.7	4.3	10.6
障害の種類	身体障害者	(n=639)	88.6	38.3	0.5	8.6	0.3	7.2	1.3	3.4
	知的障害者	(n=148)	87.8	20.3	6.8	9.5	0.0	25.0	11.5	33.1
	精神障害者	(n=254)	71.7	33.1	4.7	15.4	0.4	15.0	10.2	21.7
	難病患者	(n=112)	94.6	56.3	0.9	10.7	0.0	0.9	0.0	0.0

		(%)							
		高齢者・ 介護保険 サービス 事業所	介護保険 のケアマ ネジャー	市役所 (保健セ ンター等 も含む)	東京都の 保健所	医師、看 護師、医 療相談員 など	その他	無回答	
全体		(n=1,199)	2.3	9.2	11.5	1.2	25.6	6.1	0.1
障害の種類	身体障害者	(n=639)	3.0	13.5	7.2	0.5	20.0	3.9	0.2
	知的障害者	(n=148)	0.0	2.0	19.6	0.7	19.6	10.8	0.0
	精神障害者	(n=254)	0.8	5.1	20.5	3.1	45.3	11.0	0.0
	難病患者	(n=112)	2.7	3.6	6.3	0.9	25.0	0.9	0.0

◎成年後見制度を利用する場合に成年後見人等にやってほしいこと（問15：複数回答）

【全体】

- ・「生活・医療等に関する契約や手続き（53.3%）」が最も多く、「福祉サービスの契約や手続き（49.7%）」、「預貯金等の管理・解約（35.9%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・いずれも、上位3位は全体と同様の傾向を示している。

図表11 後見人等にやってほしいこと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)									
		預貯金等 の管理・ 解約	生活・医 療等に関 する契約 や手続き	福祉サー ビスの契 約や手続 き	不動産の 処分	相続手続	保険金受 取り	訴訟手続	その他	無回答	
全体		(N=1,419)	35.9	53.3	49.7	14.3	25.9	18.5	12.1	5.4	26.6
障害の種類	身体障害者	(n=761)	27.5	43.0	41.3	12.0	21.3	12.7	8.7	6.2	35.7
	知的障害者	(n=175)	60.6	69.7	68.6	12.6	30.9	28.0	11.4	4.6	14.3
	精神障害者	(n=304)	41.8	64.5	56.6	16.8	32.9	25.3	20.7	5.3	13.8
	難病患者	(n=125)	43.2	72.0	63.2	25.6	35.2	26.4	14.4	4.0	11.2

◎成年後見制度が利用しやすくなるために必要なこと（問16：複数回答）

【全体】

- ・「成年後見制度を理解するための周知・啓発（40.3%）」が最も多く、「家族などの親族後見人へのサポート（38.5%）」、「成年後見制度の申立てや利用について相談や紹介をしてくれる機関（37.4%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者、難病患者は「成年後見制度を理解するための周知・啓発（身体：34.8%、精神：50.3%、難病：57.6%）」が最も多い。知的障害者は「家族などの親族後見人へのサポート（52.6%）」が最も多い。

図表12 成年後見制度を利用しやすくするために必要なこと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)									
		成年後見制度を理解するための周知・啓発	成年後見制度の申立てや利用について相談や紹介をしてくれる機関	家族などの親族後見人へのサポート	長期間、後見人することができる法人後見人の養成	市民感覚で後見をしてもらえる市民後見人の養成	弁護士、司法書士、社会福祉士等の専門職後見人の養成	本人を後見人や関係機関等で支える仕組み	成年後見に関係する機関同士の地域ネットワーク	その他	無回答
全体	(N=1,419)	40.3	37.4	38.5	15.6	10.7	20.6	23.6	15.6	5.4	24.5
障害の種類	身体障害者 (n=761)	34.8	30.2	34.2	11.6	9.6	16.8	18.4	11.4	5.3	32.9
	知的障害者 (n=175)	37.1	52.0	52.6	25.7	14.3	25.1	34.3	23.4	6.3	14.9
	精神障害者 (n=304)	50.3	47.0	38.8	19.1	10.9	26.3	33.6	22.0	7.2	12.5
	難病患者 (n=125)	57.6	40.8	50.4	21.6	15.2	28.8	21.6	16.0	2.4	8.8

(4) 防災

- 地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は全体では約3割であるが、知的障害者では5割を超えている。
- 「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人は全体では1割であるが、精神障害者は約2である。
- 災害時に困ること・不安なことは、身体障害者は「避難所まで避難できるか心配」、知的障害者、精神障害者、難病患者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」が最も多い。知的障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」、「困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない」も5割を超えている。また、「災害や避難に関する情報が得られるか心配」、「市の緊急メールを受信できるかわからない」は全体よりも高い。
- 精神障害者、難病患者は、「医療を受けられるかわからない」が4割を超えている。

◎緊急時の単独避難（問17）

【全体】

- 地震や災害などの緊急時に、ひとりで避難することが「できない」と回答した人は31.3%である。

【障害の種類別】

- 知的障害者は「できない」と回答した人が51.4%と半数を超えている。

図表13 緊急時の単独避難（全体、障害の種類別）

		（%）			
		できる	できない	分からない	無回答
全体	(N=1,419)	45.7	31.3	20.3	2.7
障害の種類	身体障害者 (n=761)	47.3	31.7	18.4	2.6
	知的障害者 (n=175)	27.4	51.4	18.3	2.9
	精神障害者 (n=304)	43.1	27.0	27.6	2.3
	難病患者 (n=125)	72.0	15.2	12.0	0.8

◎地震や災害などが起きた場合の具体的な援助者（問18：複数回答）

【全体】

- 「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人は10.9%である。

【障害の種類別】

- 精神障害者は、「避難を助けてくれるような人はいない」と回答した人が20.4%である。

図表14 具体的な援助者（全体、障害の種類別：複数回答）

		（%）						
		家族	近所の人	障害者団体などの仲間	民生委員	その他	避難を助けてくれるような人はいない	無回答
全体	(N=1,419)	77.1	16.6	2.7	1.3	5.1	10.9	3.9
障害の種類	身体障害者 (n=761)	77.4	19.6	1.1	1.3	4.1	9.5	3.9
	知的障害者 (n=175)	89.7	15.4	12.0	0.6	9.1	2.3	2.9
	精神障害者 (n=304)	66.1	8.2	3.0	2.0	6.9	20.4	3.3
	難病患者 (n=125)	85.6	19.2	0.0	0.0	3.2	8.8	1.6

◎災害時に困ること・不安なこと（問19：複数回答）

【全体】

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある（51.4%）」が最も多く、「避難所まで避難できるか心配（48.2%）」、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない（40.1%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「避難所まで避難できるか心配（50.1%）」が最も多い。
- ・知的障害者、精神障害者、難病患者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある（知的：67.4%、精神：67.4%、難病：54.4%）」が最も多い。
- ・知的障害者は「避難所まで避難できるか心配（58.3%）」、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない（55.4%）」が5割を超えている。「困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない（49.7%）」も5割弱となっている。また、「災害や避難に関する情報が得られるか心配（34.3%）」は全体より9.8ポイント、「市の緊急メールを受信できるか分からない（26.3%）」は全体より8.8ポイント高い。
- ・精神障害者、難病患者は「医療を受けられるか分からない（精神：45.4%、難病：48.0%）」が4割を超えている。

図表15 災害時の不安や心配ごと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)							
		避難所まで避難できるか心配	市の緊急速報メールを受信できるか分からない	困っていることを人に伝えるのが苦手で、うまく支援を受けられない	避難を支援してくれる人がいない	災害や避難に関する情報が得られるか心配	障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない	大勢の人の中での避難所生活に不安がある	
全体	(N=1,419)	48.2	17.5	16.8	12.8	24.5	40.1	51.4	
障害の種類	身体障害者 (n=761)	50.1	17.5	5.9	10.2	22.6	40.1	41.3	
	知的障害者 (n=175)	58.3	26.3	49.7	15.4	34.3	55.4	67.4	
	精神障害者 (n=304)	47.0	16.4	31.9	18.8	28.6	42.4	67.4	
	難病患者 (n=125)	25.6	5.6	1.6	9.6	13.6	22.4	54.4	

		医療を受けられるか分からない	呼吸器等に使用する非常用電源を利用できるか分からない	障害等のある人が利用できる防災マニュアルや防災マップがない	避難場所が分からない	その他	無回答
全体	(N=1,419)	34.2	5.1	23.0	17.8	8.7	10.9
障害の種類	身体障害者 (n=761)	30.0	5.3	24.2	16.7	8.0	12.4
	知的障害者 (n=175)	28.0	7.4	25.7	23.4	6.9	6.9
	精神障害者 (n=304)	45.4	5.6	25.0	22.0	10.5	6.6
	難病患者 (n=125)	48.0	1.6	10.4	9.6	12.0	12.0

(5) 医療

- 入院経験がある人は7割台で、身体障害者は全体より10ポイント以上高い。退院するにあたり困ったことは、「十分な収入があるか」が最も多く、「必要な医療が受けられるか」、「日常の介助者がいるか」などである。身体障害者は「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか」が最も多い。
- 現在受けている治療は「定期的に通院している」が7割である。通院などで困っていることは「医療費や交通費の負担が大きい」、「気軽に往診を頼める医師がいない」、「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」などである。知的障害者では「歯医者を受診しにくい」が最も多い。

◎入院の経験（問23）

【全体】

- 「ある」は77.2%である。

【障害の種類別】

- 身体障害者は「ある」が89.3%で、全体より12.1ポイント高い。

図表16 入院の経験（全体、障害の種類別）

		(%)			
			ある	ない	無回答
全体		(N=1,419)	77.2	18.6	4.2
障害の種類	身体障害者	(n=761)	89.3	6.8	3.9
	知的障害者	(n=175)	42.9	52.5	4.6
	精神障害者	(n=304)	67.1	29.6	3.3
	難病患者	(n=125)	79.2	18.4	2.4

◎退院するにあたり困ったこと（問23-1）

【全体】

- 「十分な収入があるか（20.1%）」が最も多く、「必要な医療が受けられるか（20.0%）」、「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか（19.4%）」が続いている。

【障害の種類別】

- 身体障害者は「緊急時にすぐに助けにきてもらえるか（18.7%）」が最も多く、「必要な医療が受けられるか（18.3%）」が続いている。
- 知的障害者は「必要な医療が受けられるか（22.7%）」が最も多く、「日常の介助者がいるか（18.7%）」が続いている。
- 精神障害者と難病患者は「十分な収入があるか（精神：30.9%、難病：26.3%）」が最も多く、「必要な医療が受けられるか（精神：26.0%、難病：18.2%）」が続いている。

図表17 退院するにあたり困ったこと（全体、障害の種類別）

<入院の経験がある人>

		(%)											
		日常の介助者がいるか	住宅が確保できるか	働く場があるか	十分な収入があるか	必要な支援や機能が訓練が受けられるか	必要な医療が受けられるか	緊急時にすぐに助けにきてもらえるか	家族の理解が得られなかった	近隣の理解が得られなかった	その他	無回答	
全体		(n=1,096)	16.1	3.9	10.0	20.1	13.0	20.0	19.4	2.5	1.0	15.5	29.7
障害の種類	身体障害者	(n=679)	15.3	3.5	7.8	18.1	13.1	18.3	18.7	0.6	0.4	15.8	31.2
	知的障害者	(n=75)	18.7	2.7	8.0	5.3	8.0	22.7	17.3	2.7	1.3	20.0	34.7
	精神障害者	(n=204)	17.6	8.3	18.6	30.9	18.6	26.0	23.5	9.3	2.5	15.2	18.1
	難病患者	(n=99)	12.1	0.0	13.1	26.3	5.1	18.2	14.1	1.0	1.0	15.2	34.3

◎現在受けている治療（問24）

【全体】

- ・「定期的に通院している（71.3%）」が最も多く、その他の項目は1割に満たない。

【障害の種類別】

- ・精神障害者と難病患者は「定期的に通院している（精神：80.6%、難病92.8%）」が8割を超えている。全体と比べて、精神障害者は9.3ポイント、難病患者は21.5ポイント高い。

図表18 現在受けている医療（全体、障害の種類別）

			(%)					
			自宅で往診や訪問看護を受けている	ときどき通院している	定期的に通院している	治療は受けていない	その他	無回答
全体		(N=1,419)	2.4	7.7	71.3	8.2	1.2	9.2
障害の種類	身体障害者	(n=761)	3.0	8.9	69.2	7.8	1.2	9.9
	知的障害者	(n=175)	1.7	12.6	49.7	24.0	0.6	11.4
	精神障害者	(n=304)	1.6	5.3	80.6	3.9	2.0	6.6
	難病患者	(n=125)	1.6	1.6	92.8	0.0	0.0	4.0

◎通院などで困っていること（問24-1：複数回答）

【全体】

- ・問24で「自宅で往診や訪問介護を受けている」、「ときどき通院している」、「定期的に通院している」と回答した人に、通院などで困っていることをたずねた。「医療費や交通費の負担が大きい（21.6%）」が最も多く、「気軽に往診を頼める医師がない（11.7%）」、「専門的な治療を行う医療機関が身近にない（11.4%）」が続いている。「特に困っていない」は49.4%である。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、精神障害者、難病患者は「医療費や交通費の負担が大きい（身体：16.7%、精神：28.2%、難病：44.2%）」が最も多い。
- ・知的障害者は「歯医者を受診しにくい（18.8%）」が最も多い。

図表19 通院での困りごと（全体、障害の種類別：複数回答）

<通院して医師の治療を受けている人>

			(%)									
			通院するときに介護をしてもらえる人がいない	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	専門的なリハビリができる機関が身近にない	ちょっとした病みやけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない	気軽に往診を頼める医師がない	歯医者を受診しにくい	医療費や交通費の負担が大きい	特に困っていない	その他	無回答
全体		(n=1,155)	4.8	11.4	7.0	7.1	11.7	7.9	21.6	49.4	6.7	6.3
障害の種類	身体障害者	(n=618)	4.5	9.5	7.4	7.4	12.5	5.5	16.7	54.9	5.3	7.4
	知的障害者	(n=112)	7.1	14.3	8.0	11.6	15.2	18.8	13.4	37.5	9.8	11.6
	精神障害者	(n=266)	5.6	12.8	7.1	6.0	10.9	12.4	28.2	44.0	9.8	3.4
	難病患者	(n=120)	2.5	15.8	4.2	4.2	5.0	1.7	44.2	40.0	5.0	2.5

(6) 地域共生社会

- 近隣に住む人とのつきあいは「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」が最も多いが、知的障害者と精神障害者は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない」が2割程度で全体より高い。
- 地域で頼みたいことは「安否確認の声かけ」、「災害時避難の手助けの準備」などである。頼まれたらできることは「安否確認の声かけ」、「具合がよくないときに、病院等に連絡する」などである。
- 共生社会（ノーマライゼーション）は市民に理解されているかたずねたところ、「いいえ」は全体で6割を超え、知的障害者、精神障害者、難病患者は全体よりも高い。
- どのようなことがあれば共生社会（ノーマライゼーション）が理解されていると思うかをたずねたところ、身体障害者は「思いやりのある声かけがあること」、知的障害者、精神障害者、難病患者は「特別な目で見ないこと」が最も多い。難病患者は「トイレや駅などを利用しやすくすること」も多い。
- 必要とする合理的配慮は、「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」が最も多い。
- 地域の一員として、安心して自分らしい暮らしが「できていない」と感じる人は1割台で、その理由は「地域の中に頼れる友人・知人がいない」が最も多い。身体障害者と精神障害者では「地域の中に余暇を楽しめる場所がない」、知的障害者では「地域の中に居場所がない」も多い。

◎近隣に住む人とのつきあいの程度（問25）

【全体】

- 「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる（34.9%）」が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる（19.5%）」、「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない（12.4%）」が続いている。

【障害の種類別】

- 知的障害者と精神障害者は「全く交流はなく、近隣に住む人を知らない（知的：20.0%、精神：23.0%）」が2割台である。

図表20 近所づきあいの現状（全体、障害の種類別）

		（%）						
		個人的なことを相談し合える人がいる	さしさわりのないことなら、話せる人がいる	道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる	あいさつや会話はなくても、顔を近隣の人だと分かる人がいる	全く交流はなく、近隣に住む人を知らない	無回答	
全体	(N=1,419)	7.6	19.5	34.9	11.6	12.4	14.0	
障害の種類	身体障害者 (n=761)	9.6	25.6	33.7	7.6	6.7	16.8	
	知的障害者 (n=175)	4.6	9.7	32.6	19.4	20.0	13.7	
	精神障害者 (n=304)	3.0	9.2	37.2	19.4	23.0	8.2	
	難病患者 (n=125)	11.2	20.0	40.8	8.0	12.8	7.2	

◎地域で頼みたいこと（問26①）

【全体】

- 地域で頼みたい（頼みたいと思ったことがある）ことは、『安否確認の声かけ（53.8%）』が最も多く、『災害時避難の手助けの準備（42.6%）』、『具合がよくないときに、病院等に連絡する（41.6%）』が続いている。

【障害の種類別】

- 地域で頼みたい（頼みたいと思ったことがある）ことは、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも『安否確認の声かけ（身体：51.9%、知的：59.4%、精神：55.6%、難病：58.4%）』が最も多い。
- 2番目に多い項目は、身体障害者と難病患者は『具合がよくないときに、病院等に連絡する（身体：38.0%、難病：44.0%）』、知的障害者と精神障害者は『災害時避難の手助けの準備（知的：54.3%、精神：52.6%）』となっている。

◎頼まれたらできること（問26②）

【全体】

- 地域で頼まれたらできることは、『安否確認の声かけ（52.3%）』、『具合がよくないときに、病院等に連絡する（43.0%）』、『ちょっとした買い物やゴミ出し（40.3%）』などである。

【障害の種類別】

- 頼まれたらできることは、身体障害者、精神障害者、難病患者は『安否確認の声かけ（身体：53.4%、精神：51.3%、難病：81.6%）』が最も多い。知的障害者は『具合がよくないときに、病院等に連絡する（72.0%）』が最も多い。
- 2番目に多い項目は、身体障害者、精神障害者、難病患者は『具合がよくないときに、病院等に連絡する（身体：43.4%、精神：47.7%、難病：72.0%）』、知的障害者は『ちょっとした買い物やゴミ出し（34.3%）』となっている。

図表2-1 地域で頼みたいこと・頼まれたらできること（全体、障害の種類別）

【全体】

(N=1419)	①地域で頼みたいこと			②頼まれたらできること		
	頼みたい・頼みたいと思っ たことがある	頼みたく ない	無回答	できる	できない	無回答
(1) 安否確認の声かけ	53.8	23.5	22.7	52.3	29.4	18.3
(2) ちょっとした買い物やゴミ出し	23.6	50.7	25.7	40.3	40.2	19.5
(3) 食事や掃除・洗濯の手伝い	18.3	56.0	25.7	23.2	54.9	21.9
(4) 通院の送迎や外出の手助け	24.1	49.6	26.3	19.7	57.6	22.7
(5) 子どもの預かり	10.3	51.9	37.8	15.9	60.5	23.6
(6) 話し相手や相談相手	29.9	42.6	27.5	38.7	40.1	21.2
(7) 災害時避難の手助けの準備	42.6	31.1	26.3	30.6	47.3	22.1
(8) 具合がよくないときに、病院等に連絡する	41.6	32.1	26.3	43.0	36.3	20.7

【障害の種類別】

身体障害者 (n=761)	①地域で頼みたいこと			②頼まれたらできること		
	頼みたい・頼みたいと思っ たことがある	頼みたく ない	無回答	できる	できない	無回答
(1) 安否確認の声かけ	51.9	20.8	27.3	53.4	25.2	21.4
(2) ちょっとした買い物やゴミ出し	22.2	46.5	31.3	38.0	38.1	23.9
(3) 食事や掃除・洗濯の手伝い	13.8	54.3	31.9	20.5	52.3	27.2
(4) 通院の送迎や外出の手助け	21.0	46.1	32.9	19.1	53.3	27.6
(5) 子どもの預かり	7.2	47.9	44.9	16.0	55.4	28.6
(6) 話し相手や相談相手	23.4	42.6	34.0	40.8	33.8	25.4
(7) 災害時避難の手助けの準備	36.9	31.0	32.1	28.6	44.9	26.5
(8) 具合がよくないときに、病院等に連絡する	38.0	30.2	31.8	43.4	31.9	24.7

知的障害者 (n=175)	①地域で頼みたいこと			②頼まれたらできること		
	頼みたい・頼みたいと思っ たことがある	頼みたく ない	無回答	できる	できない	無回答
(1) 安否確認の声かけ	59.4	18.3	22.3	30.3	49.7	20.0
(2) ちょっとした買い物やゴミ出し	29.7	41.7	28.6	34.3	45.7	20.0
(3) 食事や掃除・洗濯の手伝い	29.1	41.8	29.1	26.9	52.5	20.6
(4) 通院の送迎や外出の手助け	28.6	43.4	28.0	14.9	62.2	22.9
(5) 子どもの預かり	9.7	53.2	37.1	8.6	69.7	21.7
(6) 話し相手や相談相手	36.6	33.7	29.7	22.9	54.8	22.3
(7) 災害時避難の手助けの準備	54.3	19.4	26.3	18.9	58.8	22.3
(8) 具合がよくないときに、病院等に連絡する	44.0	48.0	8.0	72.0	22.4	5.6

精神障害者 (n=304)	①地域で頼みたいこと			②頼まれたらできること		
	頼みたい・頼みたいと思っ たことがある	頼みたく ない	無回答	できる	できない	無回答
(1) 安否確認の声かけ	55.6	28.9	15.5	51.3	35.9	12.8
(2) ちょっとした買い物やゴミ出し	25.3	60.2	14.5	44.8	43.4	11.8
(3) 食事や掃除・洗濯の手伝い	25.0	61.5	13.5	26.6	59.9	13.5
(4) 通院の送迎や外出の手助け	30.6	55.9	13.5	20.4	65.1	14.5
(5) 子どもの預かり	13.2	59.2	27.6	14.5	69.1	16.4
(6) 話し相手や相談相手	42.1	42.1	15.8	36.8	48.4	14.8
(7) 災害時避難の手助けの準備	52.6	31.6	15.8	34.9	50.0	15.1
(8) 具合がよくないときに、病院等に連絡する	48.3	35.9	15.8	47.7	37.8	14.5

難病患者 (n=125)	①地域で頼みたいこと			②頼まれたらできること		
	頼みたい・頼みたいと思っ たことがある	頼みたく ない	無回答	できる	できない	無回答
(1) 安否確認の声かけ	58.4	33.6	8.0	81.6	12.8	5.6
(2) ちょっとした買い物やゴミ出し	20.0	72.0	8.0	55.2	38.4	6.4
(3) 食事や掃除・洗濯の手伝い	15.2	78.4	6.4	29.6	62.4	8.0
(4) 通院の送迎や外出の手助け	24.0	68.0	8.0	32.0	60.8	7.2
(5) 子どもの預かり	24.0	60.8	15.2	32.8	59.2	8.0
(6) 話し相手や相談相手	34.4	59.2	6.4	60.0	34.4	5.6
(7) 災害時避難の手助けの準備	40.8	48.8	10.4	52.8	39.2	8.0
(8) 具合がよくないときに、病院等に連絡する	44.0	48.0	8.0	72.0	22.4	5.6

◎共生社会（ノーマライゼーション）は市民に十分理解されているか（問29）

【全体】

- ・「はい」19.2%、「いいえ」64.1%である。

【障害の種類別】

- ・知的障害者、精神障害者、難病患者は「いいえ（知的：71.5%、精神：71.3%、難病：72.0%）」が全体より5ポイント以上高い。

図表22 市民のノーマライゼーションの理解（全体、障害の種類別）

		(%)		
		はい	いいえ	無回答
全体	(N=1,419)	19.2	64.1	16.7
障害の種類	身体障害者 (n=761)	20.6	58.4	21.0
	知的障害者 (n=175)	15.4	71.5	13.1
	精神障害者 (n=304)	20.1	71.3	8.6
	難病患者 (n=125)	20.0	72.0	8.0

◎どのようなことがあれば「理解されている」と思うか（問29-1：複数回答）

【全体】

- ・問29で「いいえ」と回答した人に、どのようなことがあれば「理解されている」と思うかをたずねたところ「特別な目で見ないこと（52.7%）」が最も多く、「思いやりのある声かけがあること（46.6%）」、「自分のことを理解して受け入れができること（36.4%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「思いやりのある声かけがあること（46.6%）」、知的障害者、精神障害者、難病患者は「特別な目で見ないこと（知的：60.0%、精神：61.8%、難病：57.8%）」が最も多い。
- ・知的障害者と精神障害者は、「自分のことを理解して受け入れができること（知的：52.0%、精神47.0%）」が全体より10ポイント以上高い。
- ・難病患者は、「トイレや駅などを利用しやすくすること（42.2%）」が10ポイント以上高い。

図表23 どのようなことがあれば理解されていると思うか（全体、障害の種類別：複数回答）
 <共生社会（ノーマライゼーション）は市民に十分理解されていないと答えた人>

		(%)								
		特別な目で見ないこと	自分のことを理解して受け入れができること	自分がやりたいことへの助けがあること	思いやりのある声かけがあること	無視せず、話を聞くこと	トイレや駅などを利用しやすくすること	盲導犬などの補助犬や車いすでの入店ができること	その他	無回答
全体	(n=910)	52.7	36.4	19.3	46.6	22.5	30.5	18.6	5.9	4.3
障害の種類	身体障害者 (n=444)	46.2	28.4	17.8	46.6	19.8	34.0	21.4	7.0	5.6
	知的障害者 (n=125)	60.0	52.0	25.6	53.6	28.8	24.0	12.8	5.6	4.8
	精神障害者 (n=217)	61.8	47.0	22.6	43.3	27.2	22.1	15.2	4.6	2.8
	難病患者 (n=90)	57.8	27.8	13.3	44.4	18.9	42.2	23.3	6.7	0.0

◎必要とする合理的配慮（問30：複数回答）

【全体】

- ・「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する（48.6%）」が最も多く、「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする（27.4%）」、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける（27.0%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する（身体：48.1%、知的：52.0%、精神：48.4%、難病：52.8%）」が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「移動を手伝う（段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など）（26.3%）」、知的障害者は「障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる（40.0%）」、精神障害者は「疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける（39.1%）」、難病患者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するために工夫をする（32.0%）」となっている。

図表2.4 必要とする合理的配慮（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)									
		困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する	障害等のある人の歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、希望を聞く	車いすの利用者が利用しやすいようカウンターの高さに配慮する	移動を手伝う（段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など）	障害等の特性により、頻繁に離席の必要がある場合に、会場の座席位置を扉付近にする	音や肌触り、室温など感覚面の調整を行う	疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける	物の位置を分かりやすく伝える	収納を手伝う（手の届きにくいところにあるものをしまうなど）	
全体	(N=1,419)	48.6	22.5	19.1	24.3	17.5	11.2	26.9	17.3	12.9	
障害の種類	身体障害者 (n=761)	48.1	25.4	21.8	26.3	16.8	8.0	20.5	16.2	12.1	
	知的障害者 (n=175)	52.0	17.7	14.9	21.1	18.3	16.6	38.9	24.0	14.3	
	精神障害者 (n=304)	48.4	19.1	15.8	20.7	19.1	16.8	39.1	17.8	11.8	
	難病患者 (n=125)	52.8	23.2	18.4	27.2	21.6	12.0	25.6	15.2	17.6	
		障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる	ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける	漢字を少なくする、ルビを振るなどの配慮をする	伝える情報を紙に書くなどして整理し、ゆっくり具体的に伝えることを心掛ける	障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする	その他	分からない	無回答		
全体	(N=1,419)	25.5	27.0	11.1	19.5	27.4	3.1	13.4	18.9		
障害の種類	身体障害者 (n=761)	21.6	23.8	7.6	16.7	22.7	3.2	13.0	21.9		
	知的障害者 (n=175)	40.0	38.3	21.7	24.6	36.0	2.9	12.0	16.0		
	精神障害者 (n=304)	29.9	32.2	15.5	24.7	35.5	3.9	13.8	13.2		
	難病患者 (n=125)	24.0	22.4	9.6	17.6	32.0	2.4	12.8	12.0		

◎地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができていますか（問31）

【全体】

- ・「できている」は50.7%、「できていない」は12.8%である。

【障害の種類別】

- ・精神障害者は「できていない（23.4%）」が全体より10ポイント以上高い。

図表25 地域の一員として安心して自分らしい暮らしができていますか（全体、障害の種類別）

		(%)				
		できている	できていない	分からない	無回答	
全体		(N=1,419)	50.7	12.8	26.1	10.4
障害の種類	身体障害者	(n=761)	56.5	9.6	20.8	13.1
	知的障害者	(n=175)	46.3	14.3	29.7	9.7
	精神障害者	(n=304)	35.2	23.4	36.8	4.6
	難病患者	(n=125)	60.8	5.6	28.0	5.6

◎自分らしい暮らしができていないと感じる理由（問31-1：複数回答）

【全体】

- ・問31で自分らしい暮らしが「できていない」答えた人に、その理由をたずねたところ、「地域の中に頼れる友人・知人がいない（60.2%）」が最も多く、「地域の中に余暇を楽しめる場所がない（32.6%）」、「地域の中に居場所がない（23.2%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者のいずれも「地域の中に頼れる友人・知人がいない（身体：53.4%、知的：64.0%、精神：69.0%、難病：42.9%）」が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者と精神障害者は「地域の中に余暇を楽しめる場所がない（身体：28.8%、精神：38.0%）」である。知的障害者は「地域の中に居場所がない（40.0%）」である。

図表26 自分らしい暮らしができていないと感じる理由（全体、障害の種類別：複数回答）

<自分らしい暮らしができていないと答えた人>

		(%)										
		地域の中に居場所がない	地域の中に頼れる友人・知人がいない	地域の中に余暇を楽しめる場所がない	希望する住まいが見つからない	希望する仕事が見つからない	診てもらえる医療機関がない	相談できる機関がない	生活を助けてくれる機関がない	その他	無回答	
全体		(n=181)	23.2	60.2	32.6	12.7	17.7	7.7	16.0	16.6	17.1	5.0
障害の種類	身体障害者	(n=73)	9.6	53.4	28.8	9.6	8.2	8.2	11.0	13.7	23.3	5.5
	知的障害者	(n=25)	40.0	64.0	28.0	8.0	8.0	12.0	24.0	20.0	8.0	4.0
	精神障害者	(n=71)	31.0	69.0	38.0	15.5	32.4	5.6	18.3	21.1	14.1	5.6
	難病患者	(n=7)	14.3	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0

(7) 施策

- ・充実を望む施策は「各種相談事業を充実すること」が最も多く、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」が続いている。
- ・身体障害者は「各種相談を充実すること」、知的障害者は「グループホームを充実すること」、精神障害者は「精神状態の不安定に対する支援の充実」、難病患者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が最も多い。

◎充実を望む施策（問32：複数回答）

【全体】

- ・「各種相談事業を充実すること（42.4%）」が最も多く、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（39.4%）」、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること（31.2%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「各種相談を充実すること（41.1%）」、知的障害者は「グループホームを充実すること（52.6%）」、精神障害者は「精神状態の不安定に対する支援の充実（52.6%）」、難病患者は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（50.4%）」が最も多い。

図表27 充実を望む施策（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)									
		各種相談事業を充実すること	障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること	権利擁護事業や成年後見制度の取り組みの充実を図ること	障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	補装具・日常生活用具給付事業を充実すること	外出時の移動支援サービスを充実すること	グループホームを充実すること	
	全体	(N=1,419)	42.4	29.1	13.0	39.4	31.2	26.6	19.6	25.4	18.0
障害の種類	身体障害者	(n=761)	41.1	24.8	10.2	34.4	35.5	24.8	27.9	29.8	11.3
	知的障害者	(n=175)	41.7	24.6	19.4	43.4	25.1	29.7	9.1	25.1	52.6
	精神障害者	(n=304)	44.1	42.4	16.1	48.7	21.4	28.3	8.2	15.8	20.1
	難病患者	(n=125)	48.8	33.6	13.6	50.4	37.6	25.6	12.8	25.6	7.2
			視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること	障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること	障害等のある人や子どもに対する暴力や差別をなくすこと	障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること	障害等のある人や子どものための短期入所を充実すること	精神状態の不安定に対する支援の充実	その他	分からない	無回答
	全体	(N=1,419)	15.5	24.0	22.6	29.7	12.2	22.1	3.2	6.8	8.7
障害の種類	身体障害者	(n=761)	21.4	21.9	18.7	28.9	10.4	12.9	3.5	7.8	10.0
	知的障害者	(n=175)	3.4	25.7	26.3	26.3	24.0	13.7	2.3	5.7	6.3
	精神障害者	(n=304)	9.2	27.0	28.3	31.6	11.2	52.6	3.3	4.6	5.3
	難病患者	(n=125)	15.2	30.4	29.6	36.0	8.8	21.6	1.6	7.2	7.2

【障害の種類×年代別】

- 身体障害者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（66.7%、52.1%）」、65歳以上は「各種相談事業を充実すること（40.7%）」が最も多い。その他の項目では、18～39歳と40～64歳で「補装具・日常生活用具給付事業を充実すること」、「視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。
- 知的障害者では、18～39歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（46.8%）」、40～64歳と65歳以上は「各種相談事業を充実すること（52.5%、44.4%）」が最も多い。その他の項目では、40～64歳で「権利擁護事業や成年後見制度の取り組みの充実を図ること」、18～39歳と40～64歳で「グループホームを充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。
- 精神障害者では、18～39歳と40～64歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（57.6%、47.4%）」、65歳以上は「利用できる通所施設を整備すること（42.9%）」が最も多い。その他の項目では、18歳～39歳は「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」と「グループホームを充実すること」、「障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること」、40歳～64歳は「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」が全体より10ポイント以上高くなっている。
- 難病患者では、18～39歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（63.6%）」、40～64歳と65歳以上は「各種相談事業を充実すること（48.2%、51.4%）」が最も多い。その他の項目では、18歳～39歳で「障害等のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること」、「障害等のある人の自立生活をめざした取り組みが家庭・学校・地域で行われること」、「障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。40歳～64歳は「障害等のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること」が全体より10ポイント以上高くなっている。65歳以上は「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること」が10ポイント以上高くなっている。

図表28 充実を望む施策（全体、障害の種類×年代別：複数回答）

(%)

			各種相談 事業を充 実するこ と	障害等 のある人 が住宅を 確保しや すくなる よう図る こと	権利擁護 事業や成 年後見制 度の取り 組みの充 実を図る こと	障害等 のある人 の働く場 の確保や 就労の定 着を図る こと	ホーム ヘルパー の派遣な ど在宅生 活支援サ ービスを 充実する こと	利用でき る通所施 設を整備 すること	補装具・ 日常生活 用具給付 事業を充 実するこ と	外出時の 移動支援 サービスを 充実する こと	グループ ホームを 充実する こと	
全体			(N=1,419)	42.4	29.1	13.0	39.4	31.2	26.6	19.6	25.4	18.0
障害の種類× 年代	身体障害者	18～39歳	(n=21)	28.6	42.9	0.0	66.7	28.6	19.0	61.9	19.0	9.5
		40～64歳	(n=192)	45.3	33.3	10.9	52.1	31.3	25.0	36.5	33.9	8.9
		65歳以上	(n=533)	40.7	20.8	10.1	26.6	37.3	25.5	23.3	29.3	12.2
	知的障害者	18～39歳	(n=124)	37.9	23.4	17.7	46.8	24.2	33.9	8.9	28.2	58.1
		40～64歳	(n=40)	52.5	30.0	27.5	35.0	27.5	25.0	10.0	17.5	40.0
		65歳以上	(n=9)	44.4	22.2	0.0	22.2	33.3	0.0	11.1	22.2	22.2
	精神障害者	18～39歳	(n=125)	45.6	40.0	20.0	57.6	16.8	27.2	8.0	12.8	31.2
		40～64歳	(n=156)	44.9	46.2	13.5	47.4	23.1	27.6	8.3	17.3	13.5
		65歳以上	(n=21)	33.3	33.3	14.3	9.5	38.1	42.9	9.5	23.8	4.8
	難病患者	18～39歳	(n=33)	48.5	45.5	12.1	63.6	21.2	24.2	15.2	27.3	0.0
		40～64歳	(n=56)	48.2	33.9	16.1	46.4	39.3	21.4	14.3	25.0	8.9
		65歳以上	(n=35)	51.4	22.9	11.4	45.7	51.4	34.3	8.6	25.7	11.4

			視覚・聴 覚などの 障害に配 慮した情 報提供を 充実する こと	障害等 のある人 の自立生 活をめざ した取り 組みが家 庭・学校 ・地域で 行われる こと	障害等 のある人 や子ども に対する 暴力や差 別をなく すること	障害等 のある人 や子ども が受診し やすい医 療体制を 充実する こと	障害等 のある人 や子ども のための 短期入所 を充実す ること	
全体			(N=1,419)	15.5	24.0	22.6	29.7	12.2
障害の種類× 年代	身体障害者	18～39歳	(n=21)	52.4	28.6	47.6	33.3	9.5
		40～64歳	(n=192)	27.6	30.7	18.2	37.5	7.3
		65歳以上	(n=533)	18.2	18.8	17.4	25.9	11.3
	知的障害者	18～39歳	(n=124)	3.2	32.3	27.4	26.6	22.6
		40～64歳	(n=40)	5.0	10.0	27.5	25.0	27.5
		65歳以上	(n=9)	0.0	0.0	11.1	33.3	22.2
	精神障害者	18～39歳	(n=125)	6.4	36.0	33.6	37.6	16.0
		40～64歳	(n=156)	10.9	21.8	26.3	30.1	6.4
		65歳以上	(n=21)	14.3	14.3	9.5	9.5	14.3
	難病患者	18～39歳	(n=33)	12.1	48.5	36.4	45.5	6.1
		40～64歳	(n=56)	17.9	26.8	32.1	41.1	8.9
		65歳以上	(n=35)	14.3	20.0	20.0	20.0	11.4

5 子どもの育ちや発達に関する調査（調査2）

- ・「障害の種類」は、F4（所持する手帳または受給者証の種類）の記載をもとに、以下のように分類して集計している。
- ・いずれの手帳にも○をつけなかった方は障害の種類別の集計結果には含まれないが、全体の集計結果に含まれている。
- ・母数が1桁台の集計結果については、言及しないことがある。

身体障害者：身体障害者手帳のみ○をつけた方

身体障害者手帳と児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

知的障害者：愛の手帳に○をつけた方（他の手帳や受給者証を所持している方を含む）

精神障害者：精神障害者保健福祉手帳のみ○をつけた方

精神障害者保健福祉手帳、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

精神障害者保健福祉手帳、特定医療費受給者証、児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

難病患者：特定医療費受給者証のみ○をつけた方

身体障害者手帳と特定医療費受給者証に○をつけた方

特定医療費受給者証と児童通所受給者証・障害福祉サービス受給者証に○をつけた方

児童通所・障害福祉サービス利用者：児童通所受給者証、障害福祉サービス受給者証のみ○をつけた方

		(人)	(%)
全体		651	100.0
障害の種類	身体障害	70	10.8
	知的障害	348	53.4
	精神障害者	34	5.2
	難病患者	5	0.8
	児童通所・障害福祉サービス利用者	177	27.2
	無回答	17	2.6

年齢別の内訳

		(上段：人、下段%)			
		乳幼児期	学齢期	中学校卒業後～17歳	無回答
全体		651	179	266	5
		100.0	27.5	40.8	0.8
障害の種類	身体障害	70	24	27	17
		100.0	34.3	38.5	24.3
	知的障害	348	58	146	142
		100.0	16.7	41.9	40.8
	精神障害者	34	2	11	21
		100.0	5.9	32.4	61.7
難病患者	5	2	1	2	
	100.0	40.0	20.0	40.0	
児童通所・障害福祉サービス利用者	177	85	77	14	
	100.0	48.0	43.5	7.9	

(1) 通園・通学の状況

- ・現在、通園・通学している人は9割を超える。通園・通学で困っていることは、身体障害者、知的障害者、難病患者は「通園・通学の送迎が大変」が最も多い。精神障害者は、「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」が最も多く、「通っている園・学校の対応が十分ではない」も全体より高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない」が最も多い。

◎通園・通学先（問1）

【全体】

- ・「どこにも通っていない」と「無回答」を除いた＜現在、通園・通学している人＞は97.2%である。

【障害の種類別】

- ・＜現在、通園・通学している人＞は、身体障害者は90.0%、知的障害者は98.8%、精神障害者は97.1%、難病患者は100.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は97.2%である。

図表29 通園・通学先（全体、障害の種類別）

		(%)										
		保育所・ 保育園・ 保育ルーム	幼稚園	特別支援 学校幼稚 部	公立小学 校（通常 の学級に 在籍）	公立小学 校（通級 指導学 級・特別 支援教室 も利用）	公立小学 校（特別 支援学級 に在籍）	特別支援 学校小学 部	私立小学 校	公立中学 校（通常 の学級に 在籍）	公立中学 校（通級 指導学級 も利用）	公立中学 校（特別 支援学級 に在籍）
全体	(N=651)	10.4	8.8	0.3	8.6	7.4	10.9	12.8	0.6	3.4	1.4	5.4
障害の種類	身体障害者 (n=70)	11.4	10.0	1.4	21.3	4.3	0.0	10.0	2.9	12.9	0.0	0.0
	知的障害者 (n=348)	6.3	2.6	0.3	3.2	0.9	15.2	21.7	0.6	1.1	0.9	7.5
	精神障害者 (n=34)	2.9	2.9	0.0	5.9	17.6	8.8	0.0	0.0	2.9	5.9	8.8
	難病患者 (n=5)	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	17.5	20.9	0.0	15.3	19.2	7.9	0.0	0.0	3.4	1.7	2.3

		特別支援 学校中学 部	私立中学 学校	高等学校	特別支援 学校高等 部	その他	どこにも 通ってい ない	無回答	現在、通 園・通学 している 人（再 掲）
全体	(N=651)	4.9	0.5	3.1	11.5	7.2	2.5	0.3	97.2
障害の種類	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	8.6	2.9	4.3	10.0	0.0	90.0
	知的障害者 (n=348)	9.2	0.6	0.9	19.8	8.0	0.9	0.3	98.8
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	23.7	11.8	5.9	2.9	0.0	97.1
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.6	1.1	0.0	7.3	2.8	0.0	97.2

◎通園・通学で困っていること（問1-1：複数回答）

【全体】

- ・通園・通学で困っていることは、「特にない（51.3%）」と「無回答（2.1%）」を除く46.6%がなんらかの理由で困っている。「通園・通学の送迎が大変（16.0%）」が最も多く、「その他（12.5%）」として、障害への理解がない、医療的ケアが必要、学区内の学校に特別支援学級がない、小学校の時の子どもの状況などが中学校へひきつがれていない、などの記述があった。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は39.6%、知的障害者は47.7%、精神障害者は72.7%、難病患者は20.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は44.8%がなんらかの理由で困っている。
- ・身体障害者、知的障害者、難病患者は「通園・通学の送迎が大変（身体：12.7%、知的：22.4%、難病：20.0%）」が最も多い。
- ・精神障害者は、「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない（24.2%）」が最も多く、「通っている園・学校の対応が十分ではない（18.2%）」が続いているが、どちらも全体より10ポイント以上高い。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は「通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない（15.1%）」が最も多い。

図表30 通園・通学での困りごと（全体、障害の種類別：複数回答）

<通園・通学している人>

			通わせない園・学校に空きがない	通園・通学の送迎が大変	通っている園・学校の対応が十分ではない	通っている園・学校が子どもに適しているのか分からない	その他	特にない	無回答	(%) 困っていることがある人 (再掲)
全体		(n=633)	1.7	16.0	7.7	8.7	12.5	51.3	2.1	46.6
障害の種類	身体障害者	(n=63)	0.0	12.7	7.9	7.9	11.1	57.2	3.2	39.6
	知的障害者	(n=344)	2.0	22.4	5.2	4.7	13.4	50.8	1.5	47.7
	精神障害者	(n=33)	0.0	9.1	18.2	24.2	21.2	21.2	6.1	72.7
	難病患者	(n=5)	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=172)	1.7	7.0	10.5	15.1	10.5	53.5	1.7	44.8

(2) 障害福祉サービスの利用

- 現在よく利用されているサービスは、身体障害者では「補装具費の支給・日常生活用具費」、知的障害者、精神障害者では「放課後等デイサービス」、難病患者では「医療型児童発達支援」と「放課後等デイサービス」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「児童発達支援」である。
- サービスの「満足度」は約6割である。サービスに不満な理由は、「希望する事業者や施設が見つからない」、「サービスの情報が入手しにくい」、「緊急時に利用できない」などである。
- 今後利用したいサービスは、身体障害者、知的障害者は「日中一時支援」、精神障害者は「児童発達支援」、難病患者は「医療型児童発達支援」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「放課後等デイサービス」である。

◎障害福祉サービスの利用状況・利用意向（問6）

【全体】

- 「希望通り利用できている」と「利用しているが希望通りではない」をあわせて<利用者層>は、『放課後等デイサービス（49.5%）』が最も多く、『児童発達支援（28.9%）』、『障害児相談支援（16.6%）』、『補装具費の支給・日常生活用具費の給付（13.5%）』、『子ども発達支援センターあゆの子外来グループ（12.5%）』が続いている。
「利用したいが事業所に空きがない」と「利用したい事業所がない」、「今後利用したい」をあわせて<未利用者層>は、『日中一時支援（35.8%）』が最も多く、『移動支援（30.9%）』、『放課後等デイサービス（30.7%）』が続いている。『短期入所（ショートステイ）（28.1%）』、『児童発達支援（24.9%）』、『障害児相談支援（23.3%）』、『医療型児童発達支援（22.1%）』、『行動援護（20.7%）』も2割を超えている。

【障害の種類別】

- 身体障害者は、<利用者層>では『補装具費の支給・日常生活用具費の給付（41.4%）』、<未利用者層>では『日中一時支援（32.9%）』が最も多い。
- 知的障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス（60.9%）』、<未利用者層>では『日中一時支援（47.4%）』が最も多い。
- 精神障害者は、<利用者層>では『放課後等デイサービス（32.4%）』、<未利用者層>では『児童発達支援（44.1%）』が最も多い。
- 難病患者は、<利用者層>では『医療型児童発達支援（20.0%）』と『放課後等デイサービス（20.0%）』、<未利用者層>では『医療型児童発達支援（40.0%）』が最も多い。
- 児童通所・障害福祉サービス利用者は、<利用者層>では『児童発達支援（54.2%）』、<未利用者層>では『放課後等デイサービス（38.4%）』が最も多い。

図表3-1 障害福祉サービスの利用状況、利用意向（全体、障害の種類別）

(1) 居宅介護（ホームヘルプ）

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	2.9	2.6	0.6	1.4	10.6	26.6	27.0	29.2	5.5	12.6
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	0.0	4.3	0.0	0.0	18.6	20.0	38.6	18.6	4.3	18.6
	知的障害者 (n=348)	4.9	3.7	1.1	1.4	13.8	19.8	29.9	26.7	8.6	16.4
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	41.2	20.6	23.5	0.0	14.7
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	1.1	0.6	0.0	1.7	1.1	37.9	18.6	39.5	1.7	2.8

(2) 同行援護

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.3	0.0	0.3	0.8	3.4	28.6	32.7	33.9	0.3	4.5
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	1.4	7.1	22.9	44.3	24.3	0.0	8.6
	知的障害者 (n=348)	0.6	0.0	0.6	0.6	4.6	21.6	38.5	33.6	0.6	5.7
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.1	23.5	29.4	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	40.1	18.6	40.1	0.0	1.1

(3) 行動援護

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.9	1.1	2.5	1.7	16.6	20.3	28.4	29.3	2.0	20.7
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	24.3	48.6	24.3	0.0	2.9
	知的障害者 (n=348)	1.7	2.0	3.2	2.0	26.1	10.9	29.3	25.6	3.7	31.3
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	8.8	2.9	20.6	26.5	20.6	26.5	0.0	32.4
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.6	1.1	3.4	34.5	20.3	40.1	0.0	5.0

(4) 短期入所（ショートステイ）

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	3.2	3.7	4.8	3.1	20.3	20.9	20.3	26.0	6.9	28.1
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	2.9	1.4	2.9	0.0	20.0	18.6	34.3	21.4	4.3	22.9
	知的障害者 (n=348)	5.5	6.6	7.5	4.6	28.4	12.1	19.0	20.1	12.1	40.5
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	2.9	0.0	29.4	32.4	14.7	20.6	0.0	32.4
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	0.0	0.0	0.6	2.3	4.0	34.5	17.5	41.2	0.0	6.8

(5) 児童発達支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	21.7	7.2	3.8	4.9	16.1	8.1	18.9	21.7	28.9	24.9
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	5.7	2.9	0.0	2.9	20.0	12.9	32.9	24.3	8.6	22.9
	知的障害者 (n=348)	15.2	6.6	4.9	4.6	17.5	8.0	22.7	23.0	21.8	27.0
	精神障害者 (n=34)	2.9	8.8	5.9	11.8	26.5	14.7	8.8	23.5	11.8	44.1
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	44.1	10.2	2.3	5.1	9.6	4.5	8.5	18.1	54.2	16.9

(6) 医療型児童発達支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	4.1	2.8	2.3	3.8	16.0	15.5	26.9	29.8	6.9	22.1
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	4.3	2.9	0.0	1.4	21.4	12.9	34.3	24.3	7.1	22.9
	知的障害者 (n=348)	3.7	2.6	2.9	3.2	14.1	14.9	31.6	29.0	6.3	20.1
	精神障害者 (n=34)	2.9	0.0	0.0	8.8	29.4	23.5	14.7	20.6	2.9	38.2
	難病患者 (n=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	4.5	4.0	2.8	5.1	12.4	16.4	18.6	36.2	8.5	20.3

(7) 放課後等デイサービス

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	36.9	12.6	6.1	3.5	21.0	6.1	9.5	8.6	49.5	30.7
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	5.7	4.3	2.9	5.7	20.0	12.9	34.3	15.7	10.0	28.6
	知的障害者 (n=348)	45.1	15.8	6.3	3.7	16.7	4.9	6.9	5.7	60.9	26.7
	精神障害者 (n=34)	14.7	17.6	11.8	2.9	17.6	20.6	11.8	11.8	32.4	32.4
	難病患者 (n=5)	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	39.5	9.6	6.8	2.8	28.8	2.3	4.0	10.2	49.2	38.4

(8) 保育所等訪問支援

		利用者層		未利用者層		利用したくない	分からない	無回答	利用者層（再掲）	未利用者層（再掲）	
		希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	利用しているが希望通りではない	今後、利用したい					
全体	(N=651)	0.8	0.3	1.8	1.5	10.9	18.3	34.7	32.3	1.1	14.3
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	0.0	0.0	0.0	4.3	18.6	14.3	37.1	27.1	0.0	22.9
	知的障害者 (n=348)	0.6	0.3	2.6	0.9	6.0	16.1	40.2	34.2	0.9	9.5
	精神障害者 (n=34)	0.0	0.0	2.9	0.0	5.9	41.2	23.5	26.5	0.0	8.8
	難病患者 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	1.7	0.6	1.1	1.1	18.1	18.1	26.6	32.8	2.3	20.3

(9) 居宅訪問型児童発達支援

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=651)	0.2	0.2	0.8	0.8	3.5	27.0	33.0	34.9	0.3	5.1
障害の種類	身体障害者	(n=70)	1.4	0.0	1.4	1.4	10.0	21.4	41.4	25.7	1.4	12.9
	知的障害者	(n=348)	0.0	0.3	0.9	0.6	4.3	21.3	37.4	35.3	0.3	5.7
	精神障害者	(n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	23.5	26.5	0.0	0.0
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	35.0	23.2	40.1	0.0	1.7

(10) 障害児相談支援

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=651)	14.6	2.0	4.0	2.2	17.2	10.1	25.7	25.2	16.6	23.3
障害の種類	身体障害者	(n=70)	5.7	0.0	0.0	0.0	21.4	18.6	32.9	21.4	5.7	21.4
	知的障害者	(n=348)	20.1	2.3	6.3	1.4	17.2	7.8	24.1	22.1	22.4	25.0
	精神障害者	(n=34)	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	26.5	29.4	20.6	5.9
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	9.6	2.8	1.7	3.4	17.5	7.9	24.3	33.3	12.4	22.6

(11) 移動支援

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=651)	4.5	4.8	4.6	1.8	24.4	14.6	23.5	24.3	9.2	30.9
障害の種類	身体障害者	(n=70)	0.0	0.0	0.0	1.4	24.3	17.1	40.0	17.1	0.0	25.7
	知的障害者	(n=348)	7.8	8.6	7.5	2.6	32.2	5.7	20.7	19.5	16.4	42.2
	精神障害者	(n=34)	2.9	2.9	5.9	0.0	23.5	29.4	20.6	14.7	5.9	29.4
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	0.6	0.0	0.6	0.6	10.2	26.0	24.3	37.9	0.6	11.3

(12) 日中一時支援

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=651)	1.8	1.7	2.8	4.3	28.7	13.5	22.7	26.0	3.5	35.8
障害の種類	身体障害者	(n=70)	2.9	0.0	0.0	1.4	31.4	12.9	34.3	17.1	2.9	32.9
	知的障害者	(n=348)	2.9	2.9	4.0	6.3	37.1	7.8	19.0	22.7	5.7	47.4
	精神障害者	(n=34)	0.0	0.0	2.9	2.9	26.5	23.5	23.5	23.5	0.0	32.4
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	0.0	0.6	1.1	1.7	13.0	20.9	26.6	36.2	0.6	15.8

(13) 意思疎通支援

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=651)	0.2	0.2	0.5	0.6	2.2	27.5	33.9	35.5	0.3	3.2
障害の種類	身体障害者	(n=70)	1.4	1.4	0.0	0.0	10.0	17.1	45.7	24.3	2.9	10.0
	知的障害者	(n=348)	0.0	0.0	0.6	0.6	1.7	23.0	38.5	36.2	0.0	2.9
	精神障害者	(n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	41.2	26.5	32.4	0.0	0.0
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	36.2	22.6	40.1	0.0	1.7

(14) 補装具費の支給・日常生活用具費の給付

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=651)	8.9	4.6	0.3	0.6	6.0	21.7	27.2	30.9	13.5	6.9
障害の種類	身体障害者	(n=70)	27.1	14.3	1.4	0.0	22.9	5.7	18.6	10.0	41.4	24.3
	知的障害者	(n=348)	10.9	5.2	0.0	0.9	4.3	17.0	31.0	31.0	16.1	5.2
	精神障害者	(n=34)	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9	41.2	26.5	26.5	2.9	2.9
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	0.6	0.6	0.0	0.6	2.8	31.6	23.7	40.1	1.1	3.4

(15) 子ども発達支援センターあゆの子外来グループ

			(%)									
			利用者層		未利用者層			利用したくない	分からない	無回答	利用者層(再掲)	未利用者層(再掲)
			希望通り利用できている	利用しているが希望通りではない	利用したいが事業所に空きがない	利用したい事業所がない	今後、利用したい					
全体		(N=651)	9.7	2.8	1.1	0.3	7.1	19.4	29.5	30.6	12.4	8.4
障害の種類	身体障害者	(n=70)	4.3	1.4	0.0	0.0	8.6	14.3	45.7	25.7	5.7	8.6
	知的障害者	(n=348)	8.6	2.9	0.6	0.3	4.9	18.1	32.2	33.0	11.5	5.7
	精神障害者	(n=34)	5.9	5.9	0.0	0.0	11.8	41.2	17.6	17.6	11.8	11.8
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	15.8	2.8	2.3	0.6	10.2	17.5	20.3	30.5	18.6	13.0

◎福祉サービスの満足度（問 6-1）

【全体】

- 福祉サービスの満足度は、「満足（24.2%）」と「やや満足（36.0%）」をあわせて＜満足層＞は、60.2%である。「やや不満（26.7%）」と「不満（5.9%）」をあわせて＜不満層＞は32.6%である。

【障害の種類別】

- 身体障害者と知的障害者は、＜満足層＞（身体：60.9%、知的：53.6%）が＜不満層＞（身体：31.8%、知的40.0%）を上回っている。
- 精神障害者と難病患者は、＜満足層＞（精神：41.1%、難病：50.0%）と＜不満層＞（精神：41.3%、難病：50.0%）は同程度で、＜満足層＞は全体より10ポイント以上低い。
- 児童通所・障害福祉サービス利用者は、＜満足層＞73.2%が＜不満層＞19.8%を上回っている。

図表32 障害福祉サービスの満足度（全体、障害の種類別）
＜障害福祉サービスを利用している人＞

		(n)	満足層		不満層		無回答	満足層 (再掲)	不満層 (再掲)
			満足	やや満足	やや不満	不満			
全体		(n=525)	24.2	36.0	26.7	5.9	7.2	60.2	32.6
障害の種類	身体障害者	(n=41)	12.2	48.7	22.0	9.8	7.3	60.9	31.8
	知的障害者	(n=282)	22.0	31.6	31.8	8.2	6.4	53.6	40.0
	精神障害者	(n=17)	23.5	17.6	35.4	5.9	17.6	41.1	41.3
	難病患者	(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=172)	30.2	43.0	18.6	1.2	7.0	73.2	19.8

◎サービスの不満な理由（問6-2：複数回答）

【全体】

- ・<不満層>にその理由をたずねたところ、「希望する事業者や施設が見つからない（43.9%）」が最も多く、「サービスの情報が入手しにくい（41.5%）」、「緊急時に利用できない（40.9%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は、「緊急時に利用できない（46.2%）」が最も多い。
- ・知的障害者は、「希望する事業者や施設が見つからない（46.0%）」が最も多い。
- ・精神障害者は、「相談先が少ない（57.1%）」と「サービスの情報が入手しにくい（57.1%）」が最も多い。
- ・難病患者は、回答者が1人しかいないが、「サービス支給量が少ない（100.0%）」となっている。
- ・児童通所・障害福祉サービス利用者は、「相談先が少ない（47.1%）」と「サービスの情報が入手しにくい（47.1%）」が最も多い。

図表33 サービスの不満な理由（全体、障害の種類別：複数回答）
 <サービスの利用にあたって不満を感じている人>

		(%)									
		サービス支給量が少ない	相談先が少ない	希望する事業者や施設が見つからない	緊急時に利用できない	費用負担が大きい	利用方法が分かりにくい	サービス内容が分かりにくい	サービスの情報が入手しにくい	その他	無回答
全体	(n=171)	35.1	33.9	43.9	40.9	17.5	23.4	22.8	41.5	39.8	1.2
障害の種類	身体障害者 (n=13)	30.8	15.4	30.8	46.2	30.8	15.4	23.1	38.5	38.5	0.0
	知的障害者 (n=113)	35.4	30.1	46.0	45.1	16.8	23.0	18.6	38.9	42.5	0.0
	精神障害者 (n=7)	28.6	57.1	42.9	42.9	28.6	28.6	14.3	57.1	57.1	14.3
	難病患者 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=34)	32.4	47.1	44.1	23.5	14.7	26.5	35.3	47.1	32.4	2.9

(3) 育ちや発達状況

- ・育ちや発達について初めて気になった時期は、約9割が就学前である。
- ・ほとんどが相談しており、相談先は「家族・親族」が最も多いが、「保育園・幼稚園・学校」、「医療機関（東京都立の療育機関）」、「友人・知人」、「子ども発達支援センターあゆの子」、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人」、「東京都立の療育機関」、「市役所（保健センター等も含む）」が4割を超えて多い。
- ・相談の効果は「具体的な対応方法を考えることができた」が最も多く、「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった」、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」などである。
- ・育ちや発達に関して「診断を受けた」は約9割である。
- ・ライフステージに応じた支援として希望することは、乳幼児期は「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと」、学齢期は「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること」が多い。

◎子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期（問7）

【全体】

- ・子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期は、「0歳～2歳（69.5%）」が最も多く、「3歳～就学前（20.7%）」が続いている。就学前が約9割である。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも「0歳～2歳（身体：68.7%、知的：75.3%、精神：38.3%、難病：60.0%、サービス利用：65.5%）」が最も多い。
- ・精神障害者は、「3歳～就学前（38.2%）」も3割を超えている。

図表34 子どもの育ちや発達について、初めて気になった時期（全体、障害の種類別）

		(%)							
		0歳～2歳	3歳～就学前	小学校	中学校	高等学校	気になったことはない	無回答	
全体		(N=651)	69.5	20.7	5.8	0.5	0.2	2.5	0.8
障害の種類	身体障害者	(n=70)	68.7	7.1	7.1	1.4	0.0	14.3	1.4
	知的障害者	(n=348)	75.3	18.1	4.0	0.0	0.3	1.4	0.9
	精神障害者	(n=34)	38.3	38.2	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0
	難病患者	(n=5)	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	65.5	27.7	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0

◎相談した人・相談機関（問8：複数回答）

【全体】

- ・「どこにも相談していない」と「無回答」を除いた＜相談経験のある人＞は98.9%である。
- ・相談先は「家族・親族（75.4%）」が最も多く、「保育園・幼稚園・学校（57.8%）」、「医療機関（東京都立の療育機関（48.7%）」、「友人・知人（47.2%）」、「子ども発達支援センターあゆの子（46.9%）」、「お子さんと同じ状況の子どもがいる人（43.2%）」、「東京都立の療育機関（43.2%）」、「市役所（保健センター等も含む）（40.1%）」が続き、いずれも4割を超えている。

【障害の種類別】

- ・＜相談経験のある人＞は、身体障害者は97.1%、知的障害者は99.1%、精神障害者は100.0%、難病患者は80.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は99.4%である。
- ・相談先は、「家族・親族（身体：75.7%、知的：73.9%、精神：67.6%、難病：80.0%、サービス利用：80.2%）」が最も多い。精神障害者は「保育園・幼稚園・学校（67.6%）」、難病患者は「医療機関（東京都の療育機関を除く）（80.0%）」も同率1位である。
- ・相談先として2番目に多い項目をみると、身体障害者は「医療機関（東京都の療育機関を除く）（60.0%）」、知的障害者は「保育園・幼稚園・学校（55.2%）」、精神障害者は「医療機関（東京都の療育機関を除く）（58.8%）」、難病患者は「友人・知人（60.0%）」と「保育園・幼稚園・学校（60.0%）」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「保育園・幼稚園・学校（68.4%）」となっている。

図表35 相談した人・相談機関（全体、障害の種類別：複数回答）

(%)

		家族・親族	友人・知人	保育園・幼稚園・学校	お子さんと同じ状況の子がいる人	民生・児童委員	児童館	子ども家庭支援センター	子ども発達支援センターあゆの子	地域生活支援センター	
全体		(N=651)	75.4	47.2	57.8	43.2	2.2	1.8	15.1	46.9	6.1
障害の種類	身体障害者	(n=70)	75.7	42.9	38.6	24.3	2.9	0.0	7.1	10.0	0.0
	知的障害者	(n=348)	73.9	44.3	55.2	45.1	1.7	1.7	11.8	49.1	7.2
	精神障害者	(n=34)	67.6	55.9	67.6	38.2	2.9	0.0	20.6	38.2	5.9
	難病患者	(n=5)	80.0	60.0	60.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	80.2	53.1	68.4	48.0	1.7	2.3	23.2	59.9	5.6

		児童相談所	市役所（保健センター等も含む）	東京都の保健所	東京都立の療育機関	医療機関（東京都立の療育機関を除く）	その他	どこにも相談していない	無回答	相談経験のある人（再掲）
全体		(N=651)	18.1	40.1	4.5	43.2	48.7	11.2	0.9	0.2
障害の種類	身体障害者	(n=70)	0.0	30.0	2.9	35.7	60.0	7.1	1.4	1.4
	知的障害者	(n=348)	26.1	38.5	5.2	51.1	46.6	8.6	0.9	0.0
	精神障害者	(n=34)	35.3	38.2	5.9	29.4	58.8	26.5	0.0	0.0
	難病患者	(n=5)	20.0	40.0	0.0	0.0	80.0	20.0	20.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	6.2	46.3	3.4	36.2	46.9	14.7	0.6	0.0

◎相談の効果（問8-1：複数回答）

【全体】

- ・＜相談経験のある人＞に相談の効果をたずねたところ、「具体的な対応方法を考えることができた（64.4%）」が最も多い。
- ・「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった（56.1%）」、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった（53.1%）」が続いている。「支援を受けて子どもが成長した（53.0%）」、「同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた（50.2%）」も5割を超えている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「具体的な対応方法を考えることができた（身体：54.4%、知的：64.9%、サービス利用：71.6%）」が最も多い。
- ・精神障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった（44.1%）」が最も多い。
- ・難病患者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった（75.0%）」と「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった（75.0%）」が最も多い。
- ・2番目に多い項目をみると、身体障害者は「話を聞いてもらって気持ちが楽になった（身体：45.6%）」、知的障害者は「適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった（知的：59.1%）」、精神障害者は「具体的な方法を考えることができた（41.2%）」と「様々な情報をもらい、子育ての役に立った（41.2%）」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「支援を受けて子どもが成長した（66.5%）」となっている。

図表36 相談の効果（全体、障害の種類別：複数回答）

<相談した経験のある人>

(%)

		話を聞いてもらって気持ちが楽になった	具体的な対応方法が考えられた	適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった	家族で子どものことについて話し合う時間が増えた	支援を受けて子どもが成長した	様々な情報をもらい、子育ての役に立った	同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた	その他	
全体		(n=644)	53.1	64.4	56.1	34.0	53.0	47.0	50.2	4.7
障害の種類	身体障害者	(n=68)	45.6	54.4	33.8	29.4	30.9	32.4	30.9	7.4
	知的障害者	(n=345)	49.9	64.9	59.1	31.6	51.6	47.2	55.9	3.5
	精神障害者	(n=34)	44.1	41.2	38.2	14.7	38.2	41.2	38.2	17.6
	難病患者	(n=4)	75.0	50.0	75.0	50.0	50.0	50.0	0.0	25.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=176)	63.6	71.6	59.7	43.8	66.5	52.8	49.4	2.8

		特に変化はない	無回答	
全体		(n=644)	5.3	1.1
障害の種類	身体障害者	(n=68)	8.8	1.5
	知的障害者	(n=345)	5.8	1.2
	精神障害者	(n=34)	8.8	0.0
	難病患者	(n=4)	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=176)	2.8	0.6

◎育ちや発達に関する診断の有無（問9）

【全体】

- ・「診断を受けた」90.3%、「診断を受けていない」7.2%である。

【障害の種類別】

- ・「診断を受けた」は、身体障害者は80.0%、知的障害者は93.7%、精神障害者は100.0%、難病患者は60.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は86.5%となっている。

図表37 育ちや発達に関する診断の有無（全体、障害の種類別）

(%)

		診断を受けた	診断を受けていない	無回答	
全体		(N=651)	90.3	7.2	2.5
障害の種類	身体障害者	(n=70)	80.0	18.6	1.4
	知的障害者	(n=348)	93.7	3.4	2.9
	精神障害者	(n=34)	100.0	0.0	0.0
	難病患者	(n=5)	60.0	40.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	86.5	10.7	2.8

◎ライフステージに応じた支援として希望すること（問11：複数回答）

【全体】

- ・「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること（69.1%）」が最も多く、「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること（68.7%）」、「入学・進学などのタイミングで、お子さんへの支援情報が途切れないうこと（68.7%）」が続いている。
- ・「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること（64.7%）」、「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること（62.8%）」、「不安なことなどがあったときに支援機関へとつないでくれる専門の職員がいること（61.1%）」も6割を超えている。

【障害の種類別】

- 身体障害者は「お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること（67.1%）」が最も多い。
- 知的障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること（72.4%）」が最も多い。
- 精神障害者は「乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること（79.4%）」と「子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること（79.4%）」が最も多い。
- 児童通所・障害福祉サービス利用者は「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと（80.8%）」が最も多い。

【障害の種類×年代別】

- 身体障害者は、学齢期で「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること（81.5%）」が全体より10ポイント以上高い。
- 知的障害者は、乳幼児期でいずれの項目も全体より10ポイント以上高い。
- 精神障害者は、学齢期でほとんどの項目で全体より10ポイント以上高い。
- 難病患者は、母数が少ないことに注意する必要があるが、乳幼児期では3項目、学齢期では6項目で全体より10ポイント以上高い。
- 児童通所・障害福祉サービス利用者は乳幼児期では「入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと（87.1%）」、「入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること（82.4%）」、「不安なことなどがあつたときに支援機関へとつないでくれる専門の職員がいること（78.8%）」で全体より10ポイント以上高い。

図表38 ライフステージに応じた支援として希望すること
(全体、障害の種類別、障害の種類×年代別：複数回答)

			乳幼児期から高等学校・特別支援学校高等部卒業まで一貫して相談・支援を受け続けられること	入学・進学などのタイミングでお子さんへの支援情報が途切れないこと	入学・進学などのタイミングに合わせて、関係する支援機関の紹介を受けられること	お子さんに関わる教育、保健、医療、福祉など関係機関の連携が強化されること	不安なことなどがあつたときに支援機関へとつないでくれる専門の職員がいること	子どものライフステージに合わせた保護者支援が行われること	その他	分からない	無回答	
全体		(N=651)	68.7	68.7	64.7	69.1	61.1	62.8	8.4	2.0	0.8	
障害の種類	身体障害者	(n=70)	61.4	64.3	60.0	67.1	52.9	57.1	5.7	2.9	1.4	
	知的障害者	(n=348)	72.4	62.6	60.9	68.4	58.9	63.8	10.1	2.3	0.6	
	精神障害者	(n=34)	79.4	70.6	50.0	73.5	64.7	79.4	11.8	0.0	0.0	
	難病患者	(n=5)	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	63.3	80.8	74.6	71.2	68.4	61.0	6.2	1.7	1.1	
障害種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	66.7	70.8	45.8	66.7	50.0	50.0	8.3	4.2	0.0
		学齢期	(n=27)	59.3	63.0	81.5	70.4	63.0	70.4	7.4	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	64.7	64.7	52.9	70.6	47.1	52.9	0.0	0.0	0.0
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	89.7	87.9	87.9	91.4	72.4	77.6	10.3	1.7	0.0
		学齢期	(n=146)	71.9	63.0	60.3	65.8	56.8	63.7	6.8	2.7	0.7
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	66.9	52.1	50.7	62.0	55.6	58.5	13.4	2.1	0.0
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=11)	100.0	90.9	54.5	81.8	72.7	90.9	9.1	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	71.4	57.1	47.6	66.7	61.9	76.2	9.5	0.0	0.0
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	乳幼児期	(n=85)	72.9	87.1	82.4	76.5	78.8	67.1	8.2	0.0	1.2
		学齢期	(n=77)	54.5	76.6	70.1	67.5	61.0	58.4	5.2	1.3	1.3
		中学校卒業後～17歳	(n=14)	57.1	71.4	57.1	64.3	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0

(96)

(4) 防災

- ・災害時に困ること・不安なことは、身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある」が最も多い。知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない」も多い。

◎災害時に困ること・不安なこと（問13：複数回答）

【全体】

- ・「大勢の人の中での避難所生活に不安がある（67.7%）」が最も多く、「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない（55.0%）」、「お子さんのことを人に伝えて、うまく支援を受けられるか不安（44.1%）」、「避難所まで避難できるか心配（40.9%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない（61.4%）」、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある（知的：75.0%、精神：73.5%、難病：40.0%、サービス利用：62.7%）」が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「大勢の人の中での避難所生活に不安がある（45.7%）」、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は「障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない（知的64.4%：精神：67.6%、サービス利用：36.2%）」である。

図表39 災害時に困ること・不安なこと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)							
		避難所まで避難できるか心配	市の緊急速報メールを受信できない	お子さんのことを人に伝えて、うまく支援受けられるか不安	避難を支援してくれる人がいない	災害や避難に関する情報が得られるか心配	障害等のある人に配慮した避難所があるのか分からない	大勢の人の中での避難所生活に不安がある	
全体		(N=651)	40.9	7.7	44.1	19.4	14.3	55.0	67.7
障害の種類	身体障害者	(n=70)	44.3	7.1	40.0	24.3	18.6	61.4	45.7
	知的障害者	(n=348)	47.7	10.1	50.3	23.6	16.7	64.4	75.0
	精神障害者	(n=34)	32.4	11.8	50.0	23.5	8.8	67.6	73.5
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	30.5	2.8	35.6	8.5	9.6	36.2	62.7

		医療を受けられるか分からない	呼吸器等に使用する非常用電源を利用できるか分からない	障害等のある人向けの防災マニュアル、防災マップがない	避難場所が分からない	その他	無回答
全体		(N=651)	17.7	5.1	26.3	5.4	9.4
障害の種類	身体障害者	(n=70)	37.1	14.3	35.7	10.0	8.6
	知的障害者	(n=348)	19.0	5.5	32.8	5.7	6.6
	精神障害者	(n=34)	14.7	5.9	26.5	5.9	8.8
	難病患者	(n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	7.9	1.1	10.2	2.8	7.3

(5) 医療・医療的ケア

- ・医療・医療的ケアを「必要としている」は、身体障害者で 3 割台、知的障害者で 2 割台、精神障害者で 3 割台、難病患者で 2 割、児童通所・障害福祉サービス利用者で 1 割台である。
- ・受けている医療・医療的ケアは、身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は、「服薬管理」が最も多い。
- ・医療・医療的ケアを実施するにあたっての困りごとは、「成人後に受診できる医療機関があるか不安」が最も多く、「通院などの移動がたいへん」、「家族への支援が少ない」、「緊急時・急変時の対応が難しい」などである。

◎現在必要としている医療的ケア（問17）

【全体】

- ・「必要としている」は 24.9% である。

【障害の種類別】

- ・「必要としている」は、身体障害者で 38.6%、知的障害者で 27.3%、精神障害者で 35.3%、難病患者で 20.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者で 13.0% である。

図表 40 現在何らかの医療的ケアを必要としているか（全体、障害の種類別）

			(%)		
			必要とし ている	必要とし ていない	無回答
全体		(N=651)	24.9	73.1	2.0
障害の種類	身体障害者	(n=70)	38.6	57.1	4.3
	知的障害者	(n=348)	27.3	71.0	1.7
	精神障害者	(n=34)	35.3	61.8	2.9
	難病患者	(n=5)	20.0	80.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	13.0	85.3	1.7

◎受けている医療・医療的ケア（問17-1：複数回答）

【全体】

- ・「服薬管理（75.9%）」が最も多く、「痰などの吸引（16.7%）」、「経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む）（16.0%）」、「ネブライザー（15.4%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童通所・障害福祉サービス利用者は、「服薬管理（身体：63.0%、知的：78.9%、精神：83.3%、難病100.0%、サービス利用：69.6%）」が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう・腸管栄養を含む）（33.3%）」、知的障害者は「ネブライザー（20.0%）」、精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「その他（精神：16.7%、サービス利用：13.0%）」である。
- ・その他の具体的内容は、精神障害者は「カウンセリング」や「多動や不安を抑える薬」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「けいれん発作時と予防のための座薬投入」や「精神的ケア」などである。

図表4-1 現在受けている医療・医療的ケア（全体、障害の種類別：複数回答）

＜医療・医療的ケアを必要としている人＞

		(%)							
		人工呼吸器管理	気管内挿管、気管切開	酸素吸入	経鼻咽頭エアウェイ管理	痰などの吸引	ネブライザー	中心静脈栄養	
全体		(n=162)	6.2	9.3	8.0	0.0	16.7	15.4	0.6
障害の種類	身体障害者	(n=27)	14.8	18.5	22.2	0.0	29.6	18.5	3.7
	知的障害者	(n=95)	6.3	10.5	7.4	0.0	18.9	20.0	0.0
	精神障害者	(n=12)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	難病患者	(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=23)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0

		(%)							
		経管栄養（経鼻・透析（腹胃ろう・膜灌流を腸ろう・含む）腸管栄養を含む）	継続する透析（腹胃ろう・膜灌流を腸ろう・含む）	定期導尿	人工肛門	服薬管理	その他	無回答	
全体		(n=162)	16.0	0.0	3.1	0.6	75.9	13.6	3.7
障害の種類	身体障害者	(n=27)	33.3	0.0	14.8	0.0	63.0	22.2	3.7
	知的障害者	(n=95)	16.8	0.0	1.1	1.1	78.9	11.6	4.2
	精神障害者	(n=12)	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0
	難病患者	(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=23)	4.3	0.0	0.0	0.0	69.6	13.0	4.3

◎医療・医療的ケアを実施するにあたっての困りごと（問17-2：複数回答）

【全体】

- ・「成人後に受診できる医療機関があるか不安（32.1%）」が最も多く、「通院などの移動がたいへん（31.5%）」、「家族への支援が少ない（22.2%）」、「緊急時・急変時の対応が難しい（21.6%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安（身体：40.7%、知的：32.6%）」が最も多い。精神障害者は「成人後に受診できる医療機関があるか不安（33.3%）」と「通院などの移動がたいへん（33.3%）」が同率で最も多い。児童通所・障害福祉サービス利用者は「通院などの移動がたいへん（26.1%）」が最も多い。
- ・2番目に多い項目は、身体障害者は「通院などの移動がたいへん（37.0%）」と「通園・通学先の受け入れが難しい（37.0%）」、知的障害者は「通院などの移動がたいへん（28.4%）」、精神障害者は「緊急時・急変時の対応が難しい（16.7%）」と「家族への支援が少ない（16.7%）」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「身近に対応可能な医療機関がない（17.4%）」と「成人後に受診できる医療機関があるか不安（17.4%）」となっている。

図表4-2 医療・医療的ケアの困りごと（全体、障害の種類別：複数回答）

＜医療・医療的ケアを必要としている人＞

		(%)									
		在宅での医療的ケアがたいへん	通院などの移動がたいへん	長時間の介助がたいへん	休日・夜間の介助がたいへん	医療的ケアの費用負担が大きい	通園・通学先の受け入れが難しい	緊急時・急変時の対応が難しい	身近に対応可能な医療機関がない	その他	無回答
全体		(n=162)	8.6	31.5	14.8	16.0	10.5	12.3	21.6	6.8	
障害の種類	身体障害者	(n=27)	22.2	37.0	18.5	29.6	11.1	37.0	33.3	7.4	
	知的障害者	(n=95)	7.4	28.4	17.9	14.7	10.5	7.4	23.2	3.2	
	精神障害者	(n=12)	8.3	33.3	0.0	8.3	8.3	0.0	16.7	8.3	
	難病患者	(n=1)	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=23)	0.0	26.1	4.3	8.7	8.7	8.7	4.3	17.4	

		(%)							
		訪問看護ステーションがない	困った時の相談先が分からない	医療的ケアに関する情報が少ない	家族への支援が少ない	成人後に受診できる医療機関があるか不安	その他	無回答	
全体		(n=162)	1.2	7.4	11.7	22.2	32.1	10.5	20.4
障害の種類	身体障害者	(n=27)	3.7	7.4	29.6	29.6	40.7	14.8	3.7
	知的障害者	(n=95)	0.0	5.3	9.5	24.2	32.6	9.5	22.1
	精神障害者	(n=12)	0.0	8.3	0.0	16.7	33.3	8.3	16.7
	難病患者	(n=1)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=23)	0.0	13.0	4.3	8.7	17.4	13.0	34.8

(6) 地域・共生社会

- 共生社会（ノーマライゼーション）の理解についてたずねたところ、「いいえ」が8割を超えている。
- どのようなことがあればお子さんが理解されていると思うかたずねたところ、「お子さんのことを理解して受け入れができること」が最も多く、「お子さんを特別な目で見ないこと」、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと」が続いている。身体障害者では「お子さんがやりたいことへの手助けがあること」も4割と多くなっている。
- 必要とする合理的配慮は、身体障害者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする」、知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける」、精神障害者は「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける」、難病患者は「お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く」、児童通所・障害福祉サービス利用者は、「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する」が最も多い。

◎共生社会（ノーマライゼーション）の理解（問18）

【全体】

- 「はい」11.2%、「いいえ」87.6%である。

【障害の種類別】

- 「いいえ」は、身体障害者は82.9%、知的障害者は88.8%、精神障害者は100.0%、難病患者は80.0%、児童通所・障害福祉サービス利用者は85.3%である。

図表43 市民の「共生社会（ノーマライゼーション）」の理解（全体、障害の種類別）

		(%)			
		はい	いいえ	無回答	
全体		(N=651)	11.2	87.6	1.2
障害の種類	身体障害者	(n=70)	17.1	82.9	0.0
	知的障害者	(n=348)	9.8	88.8	1.4
	精神障害者	(n=34)	0.0	100.0	0.0
	難病患者	(n=5)	0.0	80.0	20.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	14.1	85.3	0.6

◎どのようなことがあればお子さんが理解されていると思うか（問18-1：複数回答）

【全体】

- 「いいえ」と回答した人に、どのようなことがあればお子さんが理解されていると思うかたずねたところ、「お子さんのことを理解して受け入れができること（64.7%）」が最も多く、「お子さんを特別な目で見ないこと（45.3%）」、「お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと（45.3%）」が続いている。

【障害の種類別】

- 身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童通所・障害福祉サービス利用者のいずれも、「お子さんのことを理解して受け入れができること（身体：62.1%、知的：61.8%、精神：64.7%、難病：100.0%、サービス利用：68.9%）」が最も多い。
- 2番目に多い項目は、身体障害者は「お子さんがやりたいことへの手助けがあること（43.1%）」、知的障害者と難病患者は「お子さんを特別な目で見ないこと（知的：47.9%、難病：75.0%）」、精神障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は「お子さんが大きな声を出した

り動きまわっても、嫌な顔をされないこと（精神：52.9%、サービス利用：51.7%）」となっている。

図表4.4 どのようなことがあれば「理解されている」と思うか（全体、障害の種類別：複数回答）
 <共生社会（ノーマライゼーション）が理解されていないと答えた人>

		(%)									
		お子さんを特別な目で見ないこと	お子さんのことを理解して受け入れができること	お子さんがやりたことへの手助けがあること	お子さんへの思いやりのあやりの声かけがあること	お子さんが話すとを無視せず、話を聞くこと	トイレや駅などを利用しやすいこと	盲導犬などの補助犬や車いすでの入店ができること	お子さんが大きな声を出したり動き回っても、嫌な顔をされないこと	その他	無回答
全体	(n=570)	45.3	64.7	34.0	34.9	23.7	20.7	9.1	45.3	5.8	1.6
障害の種類	身体障害者 (n=58)	41.4	62.1	43.1	32.8	24.1	27.6	17.2	19.0	3.4	0.0
	知的障害者 (n=309)	47.9	61.8	31.1	33.0	20.1	25.6	8.1	46.3	6.8	1.9
	精神障害者 (n=34)	50.0	64.7	35.3	38.2	26.5	11.8	11.8	52.9	8.8	0.0
	難病患者 (n=4)	75.0	100.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=151)	39.7	68.9	37.1	38.4	29.8	12.6	8.6	51.7	4.6	1.3

◎必要とする合理的配慮（問19）

【全体】

- ・「お子さんや主たる養育者の方が困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する（54.2%）」が最も多く、「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける（51.6%）」、「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける（51.3%）」「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする（50.5%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者は「障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする（57.1%）」が最も多い。
- ・知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける（51.7%）」が最も多い。
- ・精神障害者は「お子さんの疲労や緊張などに配慮し別室や休憩スペースを設ける（76.5%）」が最も多い。
- ・難病患者は「お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く（60.0%）」が最も多い。
- ・児童通所・障がい福祉サービス利用者は、「お子さんや主たる養育者の方が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する（62.7%）」が最も多い。

図表4.5 必要とする合理的配慮（全体、障害の種類別：複数回答）

(96)

		お子さんや主たる養育者が、困っていると思われるときは、声をかけ、手伝いの必要性を確かめてから対応する	お子さんの歩行速度に合わせて案内したり、位置取りについて、お子さんの希望を聞く	車いすなどを利用しているお子さんが利用しやすいよう机の高さなどに配慮する	移動を手伝う（段差がある場合やエレベーターがない場合の上下移動の補助など）	障害や疾病等の特성에応じて、教室や会場の座席の位置を決める	音や肌触り、室温など感覚面の環境調整を行う	お子さんの疲労や緊張などに配慮し、別室や休憩スペースを設ける	物の位置を分かりやすく伝える	収納を手伝う（手の届きにくいところのものをとる、しまうなど）
全体	(N=651)	54.2	22.6	25.2	28.7	37.5	29.2	51.6	30.0	18.4
障害の種類	身体障害者 (n=70)	55.7	24.3	32.9	38.6	44.3	22.9	38.6	12.9	21.4
	知的障害者 (n=348)	50.0	20.4	23.0	29.6	35.6	27.3	49.4	29.0	14.9
	精神障害者 (n=34)	52.9	20.6	23.5	23.5	55.9	44.1	76.5	38.2	23.5
	難病患者 (n=5)	40.0	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	62.7	26.6	27.7	25.4	36.2	34.5	57.6	38.4	24.3

		障害等の特性に応じたコミュニケーション手段を用いる	ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかける	漢字を少なくする、ルビを振るなどの配慮をする	伝える情報を紙に書くなどして整理し、ゆっくりに伝えることを心掛ける	障害や疾病等の特性を理解し、参加するための工夫をする	その他	分からない	無回答
全体	(N=651)	48.5	51.3	22.7	36.7	50.5	6.0	2.6	3.5
障害の種類	身体障害者 (n=70)	40.0	25.7	5.7	22.9	57.1	1.4	4.3	1.4
	知的障害者 (n=348)	50.3	51.7	25.9	34.2	48.0	7.2	2.3	4.6
	精神障害者 (n=34)	67.6	73.5	29.4	55.9	52.9	11.8	0.0	0.0
	難病患者 (n=5)	40.0	20.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0
児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	45.8	58.2	22.6	44.6	53.1	4.0	2.3	1.7

(7) 施策

- 充実を望む施策は、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること」が最も多く、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」、障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること」「利用できる通所施設を整備すること」が続いている。

◎充実を望む施策（問22：複数回答）

【全体】

- 「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること（58.7%）」が最も多く、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（57.1%）」、「障害等のある人や育ちや発達が気になるお子さんが受診しやすい医療体制を充実すること（41.2%）」「利用できる通所施設を整備すること（40.7%）」が続いている。

【障害の種類別】

- 身体障害者と児童通所・障害福祉サービス利用者は、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること（身体：57.1%、サービス利用：74.6%）」が最も多い。
- 知的障害者と精神障害者は、「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（知的：66.7%、精神：61.8%）」が最も多い。

【障害の種類×年代別】

- 身体障害者では、乳幼児期と中学校卒業後～17歳は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること（乳幼児期：54.2%、中学校卒業後：70.6%）」、学齢期は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（63.0%）」が最も多い。
- 知的障害者では、乳幼児期は「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること（65.5%）」、学齢期と中学校卒業後～17歳は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（学齢期：67.8%、中学校卒業後：71.8%）」が最も多い。
- 精神障害者では、学齢期は「障害等のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（54.5%）」、「ライフステージに合わせた、切れ目のない支援をすること（54.5%）」が最も多い。
- 児童通所・障害福祉サービス利用者では、いずれの年代も「ライフステージにあわせた、切れ目のない支援をすること（乳幼児期：77.6%、学齢期：72.7%、中学校卒業後：71.4%）」が最も多い。

図表46 充実を望む施策（全体、障害の種類別、障害の種類×年代別：複数回答）

(96)

		各種相談 事業を充 実すること	障害等 のある 人が住 宅を確 保しやす くなるよ う図ること	権利擁護 事業や成 年後見制 度の取り 組みの充 実を図ること	障害等 のある 人の働 く場の 確保や就 労の定着 を図ること	ホーム ヘルパー の派遣 など 在宅生 活支 援サー ビスを 充実す ること	利用でき る通所施 設を整備 すること	補装具・ 日常生活 用具給付 事業を充 実すること	外出時の 移動支 援サー ビスを 充実す ること	グループ ホームを 充実す ること	視覚・聴 覚などの 障害に 配慮した 情報提供 を充実す ること		
全体		(N=651)	38.7	18.7	16.9	57.1	14.4	40.7	10.3	19.4	22.1	5.5	
障害の種類	身体障害者	(n=70)	27.1	22.9	4.3	50.0	18.6	25.7	37.1	20.0	2.9	17.1	
	知的障害者	(n=348)	37.4	22.7	24.4	66.7	17.8	40.5	10.1	27.6	35.3	3.4	
	精神障害者	(n=34)	32.4	26.5	8.8	61.8	8.8	20.6	0.0	8.8	17.6	2.9	
	難病患者	(n=5)	40.0	20.0	0.0	20.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	48.0	7.3	9.0	43.5	6.8	52.0	2.3	6.8	7.3	6.2	
障害種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	20.8	16.7	4.2	25.0	29.2	41.7	25.0	20.8	0.0	12.5
		学齢期	(n=27)	33.3	25.9	3.7	63.0	18.5	25.9	55.6	25.9	3.7	14.8
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	23.5	23.5	5.9	58.8	5.9	29.4	11.8	5.9	29.4	
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	44.8	15.5	19.0	53.4	19.0	53.4	6.9	22.4	25.9	6.9
		学齢期	(n=146)	34.9	22.6	20.5	67.8	19.2	39.7	11.6	27.4	28.8	4.1
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	37.3	25.4	31.0	71.8	16.2	35.9	9.9	30.3	46.5	1.4
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
		学齢期	(n=11)	45.5	27.3	9.1	54.5	0.0	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	23.8	23.8	9.5	66.7	9.5	23.8	0.0	4.8	19.0	4.8
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=1)	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福	乳幼児期	(n=85)	54.1	5.9	7.1	35.3	9.4	70.6	1.2	9.4	5.9	5.9
		学齢期	(n=77)	48.1	6.5	6.5	49.4	5.2	37.7	2.6	5.2	10.4	3.9
中学校卒業後～17歳		(n=14)	14.3	21.4	28.6	57.1	0.0	21.4	7.1	0.0	0.0	21.4	

		ライフ ステージ に合わせ た、切れ 目のない 支援をす ること	障害等 のある 人の自 立生活 をめざし た取り組 みが家 庭・学校 地域で行 われるこ と	障害等 のある 人や育 ちや発 達が気 になる お子 さん に対する 暴力 や差別 をなくす こと	障害等 のある 人や育 ちや発 達が気 になる お子 さん が受診 しやすい 医療体 制を充実 すること	障害等 のある 人や育 ちや発 達が気 になる お子 さん のため の短期 入所を充 実すること	精神状態 の不安定 に対する 支援の充 実	その他	分から ない	無回答		
全体		(N=651)	58.7	39.8	32.1	41.2	18.4	15.8	6.3	1.5	1.8	
障害の種類	身体障害者	(n=70)	57.1	42.9	27.1	40.0	15.7	11.4	7.1	0.0	1.4	
	知的障害者	(n=348)	52.9	35.9	30.5	35.9	23.0	15.2	6.3	2.0	1.4	
	精神障害者	(n=34)	55.9	58.8	32.4	44.1	8.8	32.4	11.8	0.0	0.0	
	難病患者	(n=5)	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者	(n=177)	74.6	44.1	36.7	52.5	14.7	15.8	5.6	1.1	0.6	
障害種類×年代	身体障害者	乳幼児期	(n=24)	54.2	41.7	20.8	41.7	25.0	4.2	12.5	0.0	4.2
		学齢期	(n=27)	51.9	48.1	29.6	29.6	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=17)	70.6	35.3	35.3	58.8	11.8	5.9	11.8	0.0	0.0
	知的障害者	乳幼児期	(n=58)	65.5	46.6	27.6	44.8	20.7	22.4	13.8	1.7	0.0
		学齢期	(n=146)	51.4	34.2	31.5	39.7	24.7	12.3	6.2	2.7	1.4
		中学校卒業後～17歳	(n=142)	49.3	33.8	30.3	28.2	22.5	15.5	3.5	1.4	1.4
	精神障害者	乳幼児期	(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		学齢期	(n=11)	54.5	36.4	36.4	36.4	18.2	36.4	18.2	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=21)	61.9	71.4	28.6	52.4	4.8	33.3	9.5	0.0	0.0
	難病患者	乳幼児期	(n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
		学齢期	(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		中学校卒業後～17歳	(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	児童通所・障害福	乳幼児期	(n=85)	77.6	35.3	32.9	55.3	16.5	16.5	2.4	0.0	1.2
		学齢期	(n=77)	72.7	54.5	42.9	48.1	13.0	15.6	9.1	2.6	0.0
中学校卒業後～17歳		(n=14)	71.4	42.9	21.4	57.1	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	

(8) 保護者の状況

- ・養育の負担感やストレスを軽減させるために重要と考えることは、身体障害者、知的障害者、精神障害者は、「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること」、難病患者は「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること」と「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「療育や教育の体制を充実すること」が最も多い。

◎養育の負担感やストレスを軽減させるために重要と考えること（問30：複数回答）

【全体】

- ・「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること（59.6%）」が最も多く、「療育や教育の体制を充実すること（37.3%）」、「日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス（26.9%）」、「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること（26.9%）」、「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関（26.9%）」が続いている。

【障害の種類別】

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者は、「お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること（身体：52.9%、知的：66.1%、精神：61.8%）」、難病患者は「お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること（60.0%）」と「お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関（60.0%）」、児童通所・障害福祉サービス利用者は「療育や教育の体制を充実すること（54.8%）」が最も多い。

図表47 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと（全体、障害の種類別：複数回答）

		(%)									
		日中、一時的にお子さんを預かってくれるサービス	数日間、お子さんを預かってくれるサービス	お子さんの世話のために、十分に手が回らない家事などへのサポート	お子さんを自宅や近所で介助してくれるサービス	育ちや発達が気になるお子さんの兄弟姉妹に対するサポート	育ちや発達が気になるお子さんを持つ養育者同士が交流し、情報交換などを行うこと	主に養育している人自身の趣味、学習、就労など、社会的活動に参加すること	お子さんが将来、主に養育している人の手を離れても生活できるという見通しを持てること	主に養育している人以外の家族が、もっとお子さんの世話に参加してくれること	
全体	(N=651)	26.9	12.4	8.0	4.3	10.8	15.4	13.8	59.6	5.5	
障害の種類											
	身体障害者 (n=70)	28.6	14.3	12.9	2.9	15.7	12.9	18.6	52.9	10.0	
	知的障害者 (n=348)	28.2	16.4	7.5	6.3	12.9	12.6	14.7	66.1	3.4	
	精神障害者 (n=34)	14.7	11.8	8.8	2.9	11.8	14.7	14.7	61.8	0.0	
	難病患者 (n=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	26.0	5.1	7.3	1.1	5.1	21.5	10.7	51.4	9.0	

		お子さんの世話のために生じる経済的な負担が軽減されること	お子さんの障害に対する正しい知識や、向きあい方を学ぶ機会を充実すること	お子さんの育ちや発達について何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもらえる機関	療育や教育の体制を充実すること	学童クラブなど放課後活動を充実すること	医療機関のサービス（通院、対応等）が充実すること	その他	無回答
全体	(N=651)	26.9	11.7	26.9	37.3	10.1	14.3	3.7	3.8
障害の種類									
	身体障害者 (n=70)	28.6	18.6	20.0	32.9	5.7	18.6	4.3	0.0
	知的障害者 (n=348)	28.7	8.9	24.4	30.5	10.1	14.4	4.9	3.7
	精神障害者 (n=34)	29.4	17.6	32.4	29.4	8.8	17.6	5.9	5.9
	難病患者 (n=5)	60.0	0.0	60.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	児童通所・障害福祉サービス利用者 (n=177)	21.5	13.0	31.6	54.8	13.0	10.7	0.6	5.1

6 障害者福祉関連団体調査（調査3）

（1）団体の概要

◎会員数（問2）

- ・平均は54.8人、運営に携わっている人数の平均は7.6人である。

◎活動拠点（問3、問3-1）

- ・「決まっている」は88.9%で、府中市文化センター、府中市市民活動センタープラッツ、府中市立ふれあい会館などである。

◎運営にかかる経費の収入源として最も多いもの（問4）

- ・「会員からの会費（75.0%）」、2番目に多いものは「市からの補助金（62.5%）」である。

◎活動するうえで困っていること（問6）

- ・「後継者問題（87.5%）」が最も多く、「財政的支援（50.0%）」、「活動場所の確保（37.5%）」、「社会の認識（37.5%）」、「人的支援（37.5%）」が続いている。

（2）相談支援体制

◎市の相談体制に望むこと（問7：自由記述）

- ・当事者による相談、24時間・休日も緊急時に対応できること、専門性、他分野との連携、生涯を通じた切れ目のない相談、一般市民の精神保健の相談窓口の充実、などの趣旨の記述があった。

（3）災害時の支援

◎災害時に障害等のある人々が安心して過ごせるための支援として必要なこと（問8：自由記述）

- ・資格を持った障害者対応担当者の確保、避難行動や、避難所生活における生活支援や情報伝達のあり方、福祉避難所の開設、災害時要援護者の把握・安否確認と救出体制、などの趣旨の記述があった。

（4）制度の谷間にある支援

◎障害者福祉制度の谷間にある方々への支援として必要なこと（問9：自由記述）

- ・人的支援対応の柔軟な運用、一番困っていて助けてほしいことの把握、加算措置による対応、制度の仕組みや利用できる事業所の紹介、個々の相談に丁寧に対応する、などの趣旨の記述があった。

（5）地域共生社会づくりに向けた協力意向

◎地域共生社会の実現に向けて、団体として協力できること（問11：自由記述）

- ・学習会や講演会などを通しての啓発、悩み事の傾聴、社協のわがまち協議会への参加、市とのコミュニケーションの強化、などの趣旨の記述があった。

(6) 障害福祉施策

◎障害等のある人への合理的配慮として特に必要だと思うこと（問12：自由記述）

- ・障害に対する理解促進、講演会での情報保障、設備の充実、インクルーシブ教育、障害者と同じ立場に立ち一緒に解決策を考える、その人のよいところを認めて努力している面を高く評価して受け入れる、などの趣旨の記述があった。

◎バリアフリー施策に関する期待（問13：自由記述）

- ・バリアフリーに特化するのではなく当たり前のこととして立案する、障害者だけでなく自転車や子ども連れの歩行者などにも配慮した道路整備、職場では本人の希望があり能力が同じであれば同じ待遇にすべき、などの趣旨の記述があった。

7 障害福祉サービス事業所調査（調査4）

（1）事業所の概要

◎組織形態（問1（2）①）

- ・「株式会社（31.2%）」が最も多く、「社会福祉法人（26.9%）」、「NPO（20.4%）」が続いている。

◎必要性を感じているが実施していない事業のうち、最も必要性を感じている事業（問1（4）①）

- ・「同行援護（7.5%）」が最も多く、「グループホーム（7.0%）」、「生活介護（6.0%）」、「計画相談支援（6.0%）」が続いている。

◎実施していない理由として近いもの（問1（4）②）

- ・「人材の確保・育成が難しいため（61.2%）」、「サービスに見合う収益が見込めないため（36.3%）」、「初期負担の投資金額が大きいため（26.4%）」が続いている。

（2）今後の事業運営

◎昨年度の事業の採算（問4）

- ・事業所では「黒字（29.9%）」、「赤字（40.7%）」、「損益はない（18.9%）」である。法人では「黒字（28.9%）」、「赤字（39.3%）」、「損益はない（19.9%）」である。事業所、法人ともに同様の傾向を示している。

◎サービスを実施する上での問題（問6：複数回答）

- ・事業所、法人ともに「人材の確保が難しい（事業所85.8%、法人80.4%）」が最も多く、「専門職の確保が難しい（事業所59.8%、法人46.4%）」、「報酬が実態にそぐわない（事業所57.5% 法人50.0%）」が上位3位を占めている。

◎今後5年のうちに対象となっている事業規模を拡大する予定（問8）

- ・「拡大予定」14.9%、「現状維持」50.7%、「縮小予定」2.5%、「検討中・分からない」26.9%となっている。

（3）利用者本位のしくみ

◎サービスの向上を図るための第三者評価の実施状況（問12）

- ・「実施した、実施している（26.9%）」と「実施していないが実施の予定（15.9%）」をあわせて＜実施＞は42.8%である。

◎第三者評価を実施しない理由（問12-1：複数回答）

- ・「実施の予定はない（55.2%）」と回答した事業所にその理由をたずねたところ、「費用がかかりすぎる（34.2%）」、「メリットが分からない（22.5%）」となっている。「その他（40.6%）」の理由として、会社として実施していない、利用者が少ない、設立後間もない、利用者に直接アンケートを実施している、などがあがっている。

(4) 地域共生社会づくりに向けた協力意向

◎災害時に事業所として協力できること（問17：複数回答）

- ・「在宅サービス利用者への安否確認（57.2%）」が最も多く、「在宅の災害時用援護者の避難支援への協力（22.4%）」、「施設を福祉避難所として活用することへの協力（20.9%）」が続いている。

(5) 市への要望

◎府中市の障害福祉サービスの充実に向けて、どのようなことが必要だと思うか（問20：複数回答）

- ・事業所は「緊急時・災害時に障害者を支援する体制の整備（70.8%）」が最も多く、「人材確保のための取り組み（70.0%）」、「専門職の育成、確保のための各種支援策（60.8%）」が続いている。法人は「人材確保のための取り組み（78.4%）」が最も多く、「障害等のある人とその家族が安心して暮らせるための相談体制（54.1%）」、「障害者福祉と保健・医療との連携（48.6%）」が続いている。